C-3040ZOOM

CAMEDIA

取扱説明書
デジタルカメラ

■このたびは、オリンパス デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。
■ご使用前にこの説明書をお読みください。
■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。C-3040ZOOMは画質を重視した334万画素（総画素数）のデジタルカメラです。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

● 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはオリンパスカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
● 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
● 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
● 本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
● 本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
● 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

Copyright©2000-2001 OLYMPUS Co.,Ltd.

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

本取扱説明書の読み方

本取扱説明書は次のような章で構成されています。また、索引（P.217）も用意されていますので、操作したい項目を探すのにご活用ください。

この取扱説明書の表記について

この取扱説明書では、操作上の注意事項やポイントをはっきりわかりやすくするように次のようなアイコンを使って表記しています。

このカメラでは静止画のみの機能や動画のみの機能があります。それをわかりやすくするために左のようなアイコンを使用しています。静止画アイコンは静止画の機能、動画アイコンは動画の機能を示しています。

2章以降では、操作手順の前に左のようなアイコンを使用しています。操作手順を行う前に、モードダイヤルをアイコンの位置にセットしてください。

注意 機能を使う上で注意していただきたい事項を示しています。操作を行う前にまずお読みください。

メモ 機能を使う上での知っているとより活用いただける内容を示しています。メモの内容をお読みになって、このカメラをよりご活用ください。

目次

4 目的に合わせた撮影 79

5 フラッシュ撮影 115

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
   - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - 火中への投下、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。
   - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけたときは使用しないでください。
5. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
6. 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。
7. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠注意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と蓄電池、および容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 蓄電池は必ず4本（機種によっては2本）同時に充電してご使用ください。
5. 蓄電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。

6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用･放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠警告

1. フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して1m以内の距離で撮影しないでください。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の傷害をきたすおそれがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生のおそれがあります。
   - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
   - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
   - 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
   - カメラの動作部でけがをする。
5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。
5. カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

ご使用の前に

使用条件

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので避けてください。

・直射日光下や夏の海岸など
・高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
・砂、ほこり、ちりの多い場所
・火気のある場所
・冷暖房器、加湿器のそば
・水に濡れやすい場所
・振動のある場所
・自動車の中

- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- フラッシュを短時間に何度も発光させると、発光部の温度があがることがありますので、直接手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- 「安全にお使いいただくために」の項の“その他取り扱い上のご注意”もあわせてよくお読みください。

電池について

- 電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- オリンパス製ニッケル水素電池をおすすめします（充電器セット BU-40SNH／BU-40S／B-31S／B-30S)。繰り返し使用でき経済的です。また、低温時のご使用にも有効です。
- アルカリ電池は使用できますが、電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やCR-V3に比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液漏れ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、＋－の向きを指定された方向にしたがって正しく入れてください。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- ニッケル水素電池およびニッカド電池を使用の場合は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

- ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定にしたがって処分してください。
- シール（絶縁被覆）の一部やシールがすべて剥がれている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。
- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲

  放電（機器使用時）：0℃～40℃

  充電：0℃～40℃

  保存：－20～30℃

  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 「安全にお使いいただくために」の項の " 電池使用上のご注意 " もあわせてよくお読みください。

液晶画面とバックライトについて

- 本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネルには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなかったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
- **本製品の液晶画面は精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶画面の構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**
- 「安全にお使いいただくために」の項の " その他取り扱い上のご注意 " もあわせてよくお読みください。

主な特長

- 高画質334万画素CCD（総画素数）と大口径Ｆ1.8レンズ搭載で高品位な画像が得られます。
- 3倍ズームレンズと最大5倍デジタルズーム（記録サイズ640×480のとき）で最大15倍ズーム相当の撮影が可能です。
- TIFF以外の全画質モードで、最大3.3コマ／秒の高速連写が可能です。
- ホワイトバランス機能にワンタッチホワイトバランスやホワイトバランス補正を追加。細かい色補正が可能です。
- USB機能搭載。別売ケーブルで接続するだけで簡単にパソコンへ画像データを読み込む事ができます。*
- その他の多彩な機能
  - 8点までの測光値から露出を決定できるマルチ測光。
  - 広視野TFT液晶モニタ採用。
  - 撮影に合わせて選べる露出モード（プログラム・絞り優先・シャッタ優先・マニュアル）。
  - 動画機能搭載。
  - 音声記録対応。動画と静止画、両方の撮影で利用できます。**
  - A/V出力端子付きでTVでの再生が可能（NTSC方式）。***
  - パソコンとの接続にUSB、シリアルどちらでも利用できます。
  - リムーバブルメディアにはスマートメディアを採用。
- リチウム電池パックの他に、単3型ニッケル水素電池も使えます。

＊　お使いのパソコンによってUSBドライバが必要になります。
＊＊　このカメラでの音声の再生はできません。テレビやパソコンに接続して再生してください。
＊＊＊　海外では地域によりご利用できません。

こんな楽しみ方もできます

合成写真を作成する（機能付きスマートメディアを使う）

別売のオリンパス機能付きスマートメディアを使うと、パノラマ写真やメッセージカード、挨拶状、カレンダーなどを簡単に作成することができます。お好みに合わせてお楽しみください。

● パノラマ合成機能付き標準カード（8/16/32/64MB：8MBのみ本カメラに付属されています。）とCAMEDIA Mastarを使用（P. 110/194参照）

● テンプレートカードM-4T（4MB）
画像をテンプレートと合成してシールプリントのような画像をつくります。

● カレンダーカードM-4C（4MB）
撮影した画像でカレンダーをつくります。

● 手書きタイトルカードM-4N（4MB）
手書き文字やイラストと画像を合成します。

別売のアクセサリーを使って

● 外部フラッシュFL-40（P. 123参照）をカメラに取り付けると、大光量により思いのままの撮影が可能となります。カメラのフラッシュモードと連動させると撮影範囲がさらに広がります。（ご使用には専用グリップFL-BK01、専用ブラケットケーブルFL-CB01が必要です。）
● 通信アダプタT-100HSにモデムカードを組み合わせて、携帯電話から画像を伝送できます。
● コンバージョンレンズアダプタCLA-1により、コンバージョンレンズの取り付けが可能です。

パソコンで画像を加工する

● パソコンとの通信には、シリアル／USBケーブルのどちらも接続できます。また、Windows2000、MeやMacOS9をお使いの場合は、USBケーブルで接続するだけで、カメラにセットされているカード上の撮影画像を直接読み込むことができます。（P. 188参照）
● Windows98の場合は別売りのCAMEDIA Masterを使えば、カメラとパソコンの接続の設定が簡単に行えます。また、CAMEDIA Masterを使って、パソコン上で画像の加工・保存・プリントができます。
（CAMEDIA Master 2.5をお使いください。2.5より古いバージョンでは、USBドライバがこのカメラに対応していません。USBドライバについては、オリンパスのホームページからダウンロードすることもできます。）

その他にも

・専用プリンタP-400/P-200/P-330Nを使えばスマートメディアから簡単にプリントアウトできます。（P. 209参照）
・DPOF対応プリンタ（P-400/P-200/P-330N）やDPOF対応のプリントサービスを行っているお店でプリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントすることができます。（P. 151参照）

同梱品の確認

箱の中の付属品はすべてそろっていますか。
万一、付属品が不足していたり、破損している場合はお買上げ販売店までご連絡ください。

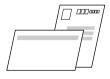
カメラ本体

カメラケース

ストラップ

リモコン

AVケーブル

保証書／ご愛用者登録はがき

レンズキャップ

取扱説明書（本書）/使い方早わかりガイド

レンズキャップ用ひも

3Vリチウム電池パック LB-01（2個）

リモコン取扱説明書

8MB スマートメディア（1枚）

スマートメディア用静電気防止ケース

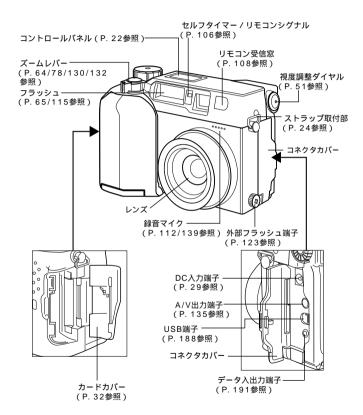
スマートメディア用ラベル（2枚）

スマートメディア用ライトプロテクトシール（4枚）

スマートメディア取扱説明書

各部の名称

カメラ本体

セルフタイマー／リモコンシグナル
（P. 106参照）
コントロールパネル（P. 22参照）
リモコン受信窓
（P. 108参照）
ズームレバー
（P. 64/78/130/132
参照）
視度調整ダイヤル
（P. 51参照）
フラッシュ
（P. 65/115参照）
ストラップ取付部
（P. 24参照）
コネクタカバー
レンズ
録音マイク
（P. 112/139参照）
外部フラッシュ端子
（P. 123参照）
DC入力端子
（P. 29参照）
A/V出力端子
（P. 135参照）
USB端子
（P. 188参照）
コネクタカバー
データ入出力端子
（P. 191参照）
カードカバー
（P. 32参照）

フラッシュモードボタン（ ）（P. 64/115参照）
／消去ボタン（ ）（P. 63参照）

スポット/マクロボタン（ / ）
（P. 76/87参照）／
プリントボタン（ ）
（P. 150参照）

十字ボタン
（P. 38参照）

モードダイアル
（P. 36参照）

シャッターボタン
（P. 52参照）

ファインダー
（P. 51/53
参照）

OKボタン（ ）
（P. 39参照）／
AEロックボタン（AEL）
（P. 90参照）／
プロテクトボタン（ ）
（P. 134参照）

液晶モニタ
（P. 22参照）

液晶モニタボタン
（ ）
（P. 55参照）

カード
アクセスランプ
（P. 54参照）

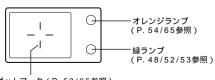
電池カバー
（P. 25参照）

（底面）

メニューボタン（ ）
（P. 37参照）

三脚穴

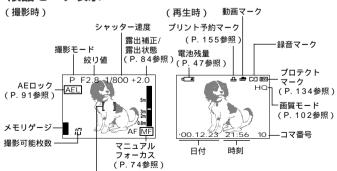
電池カバーロック（P. 25参照）

ファインダー

AFターゲットマーク（P. 53/65参照）

コントロールパネル表示

スローシンクロ（P. 121参照）
フラッシュ露出補正（P. 119参照）
マニュアルフォーカス（P. 74参照）
電池残量（P. 47参照）
カード警告（P. 48/206参照）
フラッシュモード（P. 65/116参照）
ホワイトバランス（P. 97参照）
マクロモード（P. 76参照）
ISO感度（P. 95参照）
スポット測光モード（P. 87参照）
露出補正（P. 84参照）
連写(P. 104参照)
オートブラケット（P. 85参照）
セルフタイマー／リモコン（P. 106参照）
画質モード（P. 102参照）
撮影可能枚数（P. 49参照）
録音(P. 112/139参照)
カード書き込み（P. 53/55/57参照）

SLOW
WB ISO
BKT
TIFF SHQ
SQ1 SQ2
MF
1888

液晶モニタ表示

● 再生時にその他の撮影時の情報も表示することができます。（P. 137参照）

CAMEDIA

Chapter

準備しましょう

・*この章では、電池、スマートメディアの入れ方、モードダイヤルやメニュー画面の操作方法など、カメラをお使いになる前に知っておいていただくことについて説明しています。*

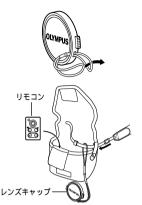
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

ストラップを取り付ける

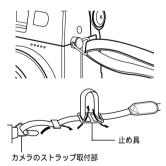
カメラ本体にストラップとカメラケース、レンズキャップを取り付けます。

1 **図の矢印に従い、レンズキャップにひもをとおします。**

2 **ストラップをカメラケースとレンズキャップのひもにとおします。**

● カメラケースの内袋にはリモコンが収納できます。

3 **ストラップ取付部にとおします。**

4 **図の矢印に従い、ストラップをとおします。ストラップを引っ張っても、止め具のところでゆるまない、抜けないことを確かめます。**

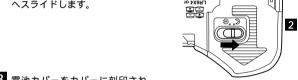
5 **もう一方の金具にも手順3、4のとおりにして取り付けます。**

注意

- **カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。**
- **上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。**

電池を入れる

電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

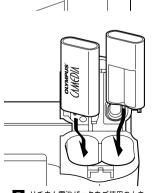
1 カメラの電源が切れている（モードダイヤルがOFFの位置にある）ことを確かめます。

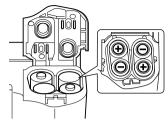
2 電池カバーロックを、⊇ の方向へスライドします。

3 電池カバーをカバーに刻印された矢印（カメラレンズの方向）にしたがってスライドさせます。

● カバーをスライドさせるときは指の腹を使ってあけてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

4 電池カバーを開けます。

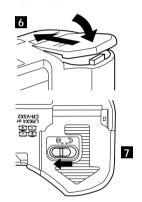
5 電池を入れます。

● **リチウム電池パックをお使いの場合**
右図にしたがって電池方向を間違わないように挿入してください。逆向きに挿入された電池は途中までしか入りません。

5 リチウム電池パックをご使用のとき

- **単3電池をお使いの場合**
  右図にしたがって電池の＋－方向を間違わないように挿入してください。

5 単3電池をご使用のとき

6 電池カバーで電池を押さえながら閉じて、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。

- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- カバーは閉じた状態で固定されます。

7 電池カバーロックを ⊜ の方向へスライドします。

注意

- **CR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パックは、充電できませんのでご注意ください。**
- **CR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パックのラベルは、剥がさないでください。端子部に外装シール（絶縁被覆）が貼られている場合は、そのテープのみ剥がしてお使いください。**
- **アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、特に低温では劣化します。リチウム電池パックまたはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。**
- **マンガン電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください。（P. 9参照）**
- **電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。**
- **電池を外した状態で1時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。**

⚠ 警告

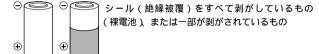
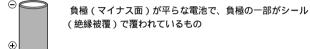
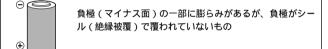
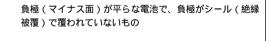
外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極の一部がシール（絶縁被覆）で覆われているもの

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

負極（マイナス面）が平らな電池で、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

リチウム電池パック（同梱）の寿命

同梱のリチウム電池パック（LB-01）で撮影できる枚数、再生できる時間の目安は以下の表に示すとおりです。ただし、電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なりますので、ご注意ください。

同梱リチウム電池パックCR-V3（LB-01）使用での電池寿命（目安）

撮影／再生	条件	電池寿命
撮影枚数	①	約400枚
再生時間	②	約360分

＊表中の数値は参考値であり保証ではありません。

使用条件

① 2枚連続撮影～10分放置～2枚連続撮影～10分放置の繰り返し。（常温25℃）、フラッシュ発光50%、各撮影につきズーム動作、フルタイムAFオフ、デジタルズームオフ。（再生、パソコンとの通信無し）

② 自動再生モードによる連続再生、オートパワーオフ直後にパワーオンして、再度自動再生の繰り返し。

注意

- **パソコンと接続してお使いの場合は、別売のACアダプタ（C-7AC）のご使用をおすすめします。**
- **以下の条件では撮影をしなくても電力を消費しており、撮影可能枚数が減少することがあります。**
  - **撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。**
  - **ズーム動作を繰り返す。**
  - **フルタイムAFをオンしている。**
  - **再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。**
  - **パソコンとの通信時。**

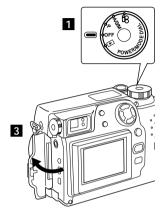
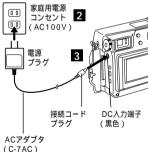
家庭用電源を使う

家庭用コンセントにつなげるには、専用ACアダプタ（別売、C-7AC）が必要です。電源は必ずAC100Vをご使用ください。

1 カメラの電源が切れている（モードダイヤルがOFFの位置にある）ことを確かめます。

2 ACアダプタの電源プラグを、家庭用電源コンセントにしっかりと差し込みます。

3 カメラのコネクタカバーを開けて、DC入力端子に接続コードプラグを接続します。

4 使用後は必ずカメラの電源を切り、接続コードプラグをカメラから抜き、次に電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。

注意

- **ACアダプタを長時間接続するとACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。**

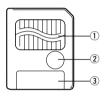
⚠ 警告

火災・感電・やけどのおそれがあります。

- **専用のACアダプタ（C-7AC）（EIAJ規格・極性統一型プラグ付）以外は絶対に使わないでください。カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。**
- **電源は必ずAC100Vをご使用ください。**
- **ACアダプタプラグの差し込みが不完全な状態で使用しないでください。**
- **濡れた手でACアダプタのプラグの抜き差しは絶対にしないでください。**
- **万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を中止してください。また、ただちに販売店・当社サービスステーションにご相談ください。**
- **ACアダプタを抜き差しする際は、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。**
- **ACアダプタをコンセントから抜くときは、必ずACアダプタの電源プラグを持って抜いてください。ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にしないでください。**
- **ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、すぐにお買い上げの販売店にご相談ください。**
- **使用しないときは、必ずACアダプタをカメラおよびコンセントから外してください。**
- **別売の専用アダプタ（C-7AC）は日本国内用です。海外ではご使用になれません。**

スマートメディアを入れる・取り出す

スマートメディアとは？
オリンパスのデジタルカメラCAMEDIA用の記録媒体で、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディア中に記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、パソコンで加工することができます。
この取扱説明書では、スマートメディアのことを「カード」と呼んでいます。

使用できるスマートメディア
・同梱の8MBの標準カード（パノラマ合成機能付き）
・別売のオリンパス社製4MB/8MB/16MB/32MB/64MB
・市販の3V (3.3V)カード4MB/8MB/16MB/32MB/64MB

① **接触面（コンタクトエリア）**
カメラが接触する部分です。
② **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに同梱のライトプロテクトシールを貼ります。
③ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに同梱のラベルを貼ります。

スマートメディアのお取り扱い上の注意
・動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、動作・保管湿度：95%以下
・保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
・カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
・スマートメディアの取扱説明書（同梱）もお読みください。
・カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。
・市販の5Vカードは使用できません。当社カードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。

注意
・**オリンパス製以外の市販のカードやパソコンなど他の機器で初期化したカードは、カメラで認識されないことがありますのでお使いになる前にあらかじめこのカメラで初期化してください。（P. 147参照）**

カードを入れる

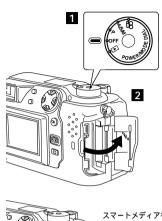
1 **カメラの電源が切れている（モードダイヤルがOFFの位置にある）ことを確かめます。**

2 **カードカバーを開けます。**

3 **スマートメディア（以下カードといいます）の向きを図のようにして、カメラに押し込みます。**

- カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。
- 機能付きスマートメディア（別売）の場合も同様に挿入してください。

4 **カードカバーを閉めます。**

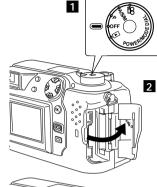
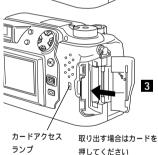
1
準備しましょう

カードを取り出す

1 カメラの電源が切れている（モードダイヤルがOFFの位置にある）ことを確かめます。

2 カードカバーを開けます。

3 カードを押します。

● カードが取り出しやすい位置まで、出てきます。

4 カードをつまんで引き抜きます。

カードを取り出すときのご注意

カードアクセスランプ点灯中は、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。

注意

・ **破壊されたデータの復旧はできません。**

日付／時刻を設定する

カメラに内蔵されている時計の時刻と日付の設定をします。撮影した画像に日時を入れることができます。

1 **レンズキャップを外します。**

2 **モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」「▶」のどれかにセットします。**

● カードに画像が記録されていない時は、「▶」以外にセットしてください。

3 **☰（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

4 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押します。**

●「設定」が表示されます。

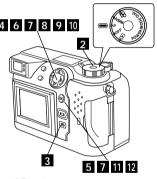
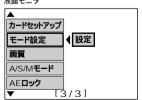
5 **OKボタンを押します。**

● モード設定画面が表示されます。

6 **△ ▽ を押して、「日時設定」を選択します。**

7 **▷ を押して「設定」を選択し、OKボタンを押します。**

● 日時設定画面が表示されます。

1

液晶モニタ

（画面は静止画撮影メニューです）

8 **⟲ が選択されているときに、△ ▽ を押して日付の順序を選択します。**

● 順序は
DMY（日・月・年)、
MDY（月・日・年)、
YMD（年・月・日)、
の中から選択します。

9 **▷ を押して年（Y）の設定に移動します。**

10 **△ ▽ を押して年を設定します。年が確定したら ▷ を押して月に移動します。**

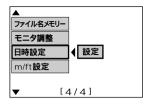
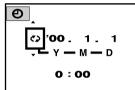
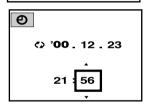
●「分」までの設定を同様に繰り返します。

11 **OKボタンを押します。**

● 0秒の時報に合わせてOKボタンを押すと、正確に時間を合わせられます。
● モード設定画面に戻ります。

12 **メニュー画面が消えるまでOKボタンを押します。**

● 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。

メモ

・ 2000年は '00と表示されています。

注意

- **電池を抜いた状態で約1時間放置すると、設定した日付は解除されます（当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。**
- **大切な撮影の前には、日付・時刻が正しく設定されていることをご確認ください。**
- **モードダイアルが「 ▶ 」の時は、カードに画像が記録されていないと、☰（メニューボタン）を押してもメニュー画面は表示されません。**
- **電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。**

モードダイヤルの使い方

モードダイヤルには「P」（静止画プログラム撮影モード）、「A/S/M」（静止画撮影モード）、「 」（動画撮影モード）、「OFF」（電源切）、「 」（再生モード）があり、ダイヤルをまわすだけで簡単に電源の入/切やモードの切り替えができます。

各モードの説明

「P」/「A/S/M」（静止画撮影モード）

モードダイヤルを「P」および「A/S/M」にすると、静止画撮影モードで電源が入ります。
「P」のプログラム撮影モードはカメラが自動的に最適な設定値を計算しますので、シャッターを押すだけで、きれいな画像が撮影できます。
「A/S/M」の撮影モードは静止画撮影メニューから「絞り優先撮影」「シャッター優先撮影」「マニュアル撮影」が選択でき（P. 80 ～ 83参照）、お好みの設定で高度な撮影が楽しめます。

「 」（動画撮影モード）

モードダイヤルを「 」にすると、動画撮影モードで電源が入り、動画を撮影することができます。

「OFF」（電源切）

モードダイヤルを「OFF」にすると、電源が切れます。

「 」（再生モード）

モードダイヤルを「 」にすると、再生モードで電源が入り、カードに記録された画像を見ることができます。

メニューの操作方法

メニュー操作をすると、さまざまな設定を行うことができます。メニューは、液晶モニタに表示され、モードダイヤルの設定によって、異なります。

撮影メニュー一覧、再生メニュー一覧（P. 41～ 44）を参照して、使いたい機能を選んでください。その機能によって、モードダイヤルの設定が決まります。

静止画撮影メニュー　：P 、A /S/M
動画撮影メニュー　　：
静止画再生メニュー　：
動画再生メニュー　　：

1 **（メニューボタン）を押します。**

- メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して設定したい項目を選択します。**

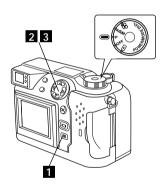
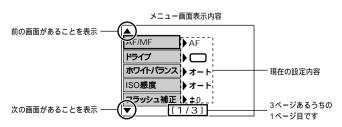
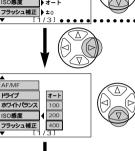
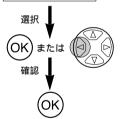
- 緑の枠が移動して、項目名が緑で表示されます。
- 「モード設定」を選択する場合は、P. 163 をお読みください。

3 **▷ を押して、選択した項目の設定に移ります。**

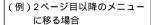
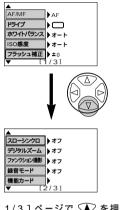
- 緑の枠が右に移動して、その項目の設定一覧が表示されます。

メニュー画面表示内容

（例）ISO感度「400」を選択する場合

OK

確定

- 設定を保存し、メニューから抜けるには、このようにもう1度 (OK) を押します。1回目の (OK) は選択のみです。
- 確認の段階で撮影することができる項目もあります。
- (OK) を押すかわりに、▤（メニューボタン）でメニューを終了すると、設定は保存されません。

（例）2ページ目以降のメニューに移る場合

- [1/3] ページで ▲ を押して、[3/3] ページへ移ることもできます。

4 △ ▽ で設定内容を選択します。

- 選択されている設定内容は、緑色で表示されます。
- 選択した設定内容に、さらに右側に設定内容が表示されている場合は、手順 5 へ進みます。選択した設定内容だけの場合は、手順 6 へ進みます。

5 選択した設定内容に、さらに設定内容がある場合は ▷ を押して次の設定項目へ移動してから、△ ▽ を押して設定を選択します。

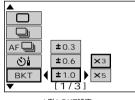
（例）BKT設定

6 設定が終わったら、OKボタンまたは ◁を押して、設定項目名に戻ります。

- 緑枠が左へ移動して、右側には選択された設定が表示されます。
- 撮影モード（モードダイヤルは ▶ 以外にセット）のときは、ここで撮影できます。

7 OKボタンを押します。

- 設定が保存されメニュー画面が消えて、通常の画面に戻ります。

1 準備しましょう

こんなときは

- メニュー画面で前ページに戻りたい（次ページに進みたい）
  → メニューの選択枠が最下段（または最上段）にあるときに、十字ボタンの ▽（または △）を押すと、次のページへ移動します。最終ページの場合は、▽を押すと1ページ目に戻ります。1ページ目では、△を押すと最終ページへ移動できます。
- メニュー操作をキャンセルしたい
  → ☰（メニューボタン）を押してください。設定内容もキャンセルされて、通常の画面に戻ります。
- 再生モードで、メニュー画面が表示されない
  → カードに画像が保存されていないと、メニュー画面は表示されません。
- 設定内容を保存したい
  → モード設定で、「設定クリア」ー「オフ」に設定してください。電源を切っても設定した内容は解除されずに保存されています。（P. 165参照）
  モード設定の中で設定した内容は、「設定クリア」ー「オン」「オフ」にかかわらず、電源を切っても保存されています。
- 設定した項目が機能しない
  → 設定項目を選択後にOKボタンが押されていません。再度設定をやり直し、OKボタンを押してください。

注意

- **モードダイアルが「 ▶ 」のときは、カードに画像が記録されていないと ☰（メニューボタン）を押してもメニュー画面は表示されません。**
- **撮影モードでは、設定後OKボタンを押さずにそのまま撮影できます。設定は再度 ☰（メニューボタン）を押すまで有効です。**
- **設定後OKボタンを押さずに ☰（メニューボタン）を押すと、各設定は無効となり、メニューモードから抜けます。**
- **設定クリアをオフにすれば、電源を切っても各設定は解除されません。（P. 165参照）**

撮影メニュー一覧

このカメラでは以下に示す項目の設定が可能です。被写体に応じてお好みの設定を行ってください。以下のメニューの決定（P. 41～ 44を参照）をするには、メニュー操作のページ（P. 37～ 40を参照)、またはそれぞれの機能のページを参照してください。

静止画撮影メニュー

静止画撮影モード（PまたはA/S/M）で表示されます。

メニューページ	表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
1/3	**AF/MF**	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えます。	AF	P.74
	ドライブ	連写やセルフタイマー、オートブラケット撮影を行うときに設定します。	1コマ撮影	P.85 P.104 P.106
	ホワイトバランス	光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	オート	P.97 P.98
	ISO感度	ISO感度を設定します。	オート	P. 95
	フラッシュ補正	フラッシュの発光量を補正します。	±0	P.119
2/3	**スローシンクロ**	夜景撮影の効果を出すため、フラッシュの発光タイミングを設定します。	オフ	P.121
	デジタルズーム	最大5倍のデジタルズームが使用できます。	オフ	P.77
	ファンクション撮影	特殊撮影（モノクロ/セピア/白板/黒板）ができます。	オフ	P.109
	録音モード	撮影後に音声メモができます。	オフ	P.112
	機能カード	パノラマ画像作成用など機能付きカードを使うときに設定します。	－	P.110

メニューページ	表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
3/3	カードセットアップ	カードの初期化をします。	ー	P.147
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P.163のモード設定一覧をご覧ください。	ー	P.162
	画質	（TIFF/SHQ/HQ/SQ1/SQ2）を設定します。	HQ	P.102
	A/S/Mモード	モードダイヤルを「A/S/M」にしたときの機能を設定します。	A	P.80
	AEロック	AEロックまたはマルチ測光を使用できます。	オフ	P.90

動画撮影メニュー

動画撮影モード（ 🎥 ）で表示されます。

メニューページ	表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
1/2	AF/MF	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えます。	AF	P.74
	セルフタイマー/リモコン	セルフタイマーを使って撮影を行うときに設定します。	オフ	P.106
	ホワイトバランス	光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	オート	P.97 P.98
	ISO感度	ISO感度を設定します。	オート	P.95
	ファンクション撮影	モノクロ/セピア撮影ができます。	オフ	P.109
2/2	録音モード	動画撮影時に音声を録音するかどうかが選択できます。	オン	P.114
	カードセットアップ	カードの初期化をします。	ー	P.145 P.147
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P.163のモード設定一覧をご覧ください。	ー	P.162
	画質	画質モード（HQ/SQ）を設定します。	HQ	P.102

再生メニュー一覧

静止画再生メニュー

静止画コマを再生しているときに表示されます。

メニューページ	表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
1/2	**自動再生**	自動的にコマ送りで再生します。	―	P.133
	画像情報表示	画像の撮影詳細情報（カメラの設定、日時、ファイルネームなど）を表示できます。	オフ	P.137
	録音	撮影済みの画像に音声を付けます。	―	P.139
	ファンクション再生	機能付きカードを使って合成写真が作れます。機能付きカード使用時以外は選択できません。	―	―
2/2	**カードセットアップ**	全コマ消去やカードの初期化をします。	―	P.145 P.147
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P.163のモード設定一覧をご覧ください。	―	P.162

動画再生メニュー

動画コマを再生しているときに表示されます。

メニューページ	表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
1/1	**ムービー再生**	動画をムービー再生します。	―	P.61
	画像情報表示	画像の撮影詳細情報（日時、ファイルネームなど）を表示できます。	オフ	P.137
	ファンクション再生	ムービーの内容を一覧できるインデックスを作成したり、ムービーを編集できます。	―	P.140
	カードセットアップ	全コマ消去やカードの初期化をします。	―	P.147
	モード設定	カメラを使い方に合わせて設定します。P.163のモード設定一覧をご覧ください。	―	P.162

CAMEDIA

Chapter

使ってみましょう ～撮影と再生の基本

2

・*この章では、カメラの扱い方、簡単な撮影、再生の仕方、画像の消し方など、基本的な操作について説明しています。これらの説明を順に読みながら操作して、カメラの扱いに慣れてください。*

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

電源を入れる／切る

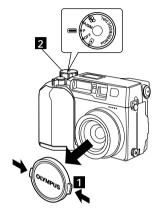
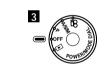
モードダイヤルを「OFF」以外にすると、カメラの電源が入ります。
必ずレンズキャップをはずしてから電源を入れてください。

1 図の矢印にしたがって、レンズキャップの端を押して外します。

2 モードダイヤルを「P」にします。

- カメラの電源が入ります。
- モードダイヤルを「P」「A/S/M」「🎥」にすると撮影モードとなり、レンズが前面へ移動します。コントロールパネルに、電池残量（電池残量が十分にある場合、自動的に消えます。）と撮影できる枚数が表示されます。
- モードダイヤルを「▶」にすると再生モードとなり、液晶モニタが点灯します。

3 使用後はモードダイヤルを「OFF」にします。

- カメラの電源が切れます。
- レンズが収納位置に戻り、コントロールパネルおよび液晶モニタが消灯します。
- 使用しないときは、必ずレンズキャップをつけてください。

注意

- **必ずレンズキャップを外してから電源を入れてください。**
- **カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。**
- **何も操作をしないで3分経過すると、スリープ状態（待機状態）になり、コントロールパネルの表示が消えます。シャッターボタンまたはズームレバーを操作すると、表示が再び点灯します。なお、約4時間たつと自動的に電源が切れますが、しばらく撮影しないときは、できるだけ電源を切っておいてください。（新品電池をお使いの場合は、電池の種類によりこの時間が長くなる場合があります。）**
- **電源を切ったり電池の交換を行っても、撮影した画像は保存されます。**

撮影前の確認

電池残量を確認する

電源を入れると、コントロールパネルに電池残量が次のように表示されます。電池残量が少なくなったら、新しい電池に交換してください。また、ニッケル水素電池やニッカド電池をご使用の場合は、充電を行ってください。

が点灯。（自動的に消えます）
電池の残量は十分です。撮影できます。

が点滅し、コントロールパネルの他の表示は通常通り点灯。
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
撮影は可能ですが、途中で電池が切れるおそれがあります。

が点滅し（12秒後に消灯）、コントロールパネルの他の表示は消灯。
電池の残量がなくなりました。新しい電池と交換してください。

2

使ってみましょう～撮影と再生の基本

注意

- **長期の旅行、大切な行事、寒冷地での撮影などには予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。（P. 25参照）**
- **使用する電池の種類によって、残量表示のタイミングが変わりますので、ご注意ください。**
- **ニッケル水素電池をお使いの場合は、リチウム電池パックをお使いの時よりも早く電池残量警告が点滅します。**
- **電池を使用して電池の寿命末期に撮影した場合、撮影後または電源を入れたときに「ピピピピピ」と連続して警告音が鳴り、コントロールパネルのコマ番号が点滅することがあります。このような場合は撮影が正常に行われておりません。新しい電池に交換のうえ再度撮影を行ってください。**

カードの有無を確認する（カードチェックについて）

撮影モードで電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

コントロールパネル - - - カード警告マーク ファインダー 緑ランプ	**カードがカメラ中に入っていないとき/カードに問題があるときに表示されます。** コントロールパネルのカード警告マークとファインダー横の緑ランプが点滅します。液晶モニタにも同時に「カードを認識できません」の表示が出ます。 → カードを挿入してください。
コントロールパネル -E-	**カードに問題があるときに表示されます。** 液晶モニタにも同時に「このカードは使用できません」の表示が出ます。 → フォーマットを行うか、新しいカードを使用してください。
コントロールパネル -F- 液晶モニタ カードセットアップ フォーマット 電源OFF 実行◆OK	**カードの初期化が必要なときに表示されます。** 液晶モニタにも同時にフォーマット画面が表示されます。 → カードのフォーマットを行ってください。（P. 147参照）十字ボタンで「フォーマット」を選択して、OKボタンを押すとカード初期化メニューに移ります。フォーマットが終了すると、液晶モニタは撮影する被写体の画面に変わります。

撮影できる枚数／時間を確認する

モードダイヤルを「P」、「A/S/M」にして、電源を入れると、コントロールパネルに撮影できる枚数が表示されます。（モードダイヤルを「🎥」にして電源を入れると、撮影できる秒数が表示されます。）

静止画撮影可能枚数（枚）

画質モード		記録サイズ	ファイル形式	スマートメディアの記憶容量（音声無しの画像の場合/音声付きの画像の場合）			
				8MB	16MB	32MB	64MB
TIFF		2048×1536	TIFF	0/0	1/1	3/3	6/6
		1600×1200		1/1	2/2	5/5	11/11
		1280×960		2/2	4/4	8/8	17/17
		1024×768		3/3	6/6	13/13	27/26
		640×480		8/8	16/16	33/32	67/65
SHQ		2048×1536	JPEG	3/3	6/6	13/13	27/27
HQ		2048×1536		10/9	20/19	40/39	81/78
SQ1	高画質	1600×1200		5/5	11/11	22/22	45/44
	標準			16/15	31/30	64/60	128/120
	高画質	1280×960		8/8	17/16	34/33	69/67
	標準			24/22	49/45	99/90	199/181
SQ2	高画質	1024×768		13/12	26/25	53/51	107/102
	標準			38/32	76/66	153/132	306/265
	高画質	640×480		32/29	66/58	132/117	265/234
	標準			82/61	165/123	331/248	664/498

・画質モードがTIFFに設定されているときは、撮影モードでの音声記録はできません。再生モードでのアフレコ（P. 139参照）はできます。

動画撮影可能秒数（秒）

画質モード	記録サイズ	スマートメディアの記憶容量			
		4MB	8MB	16MB	32MB以上
HQ	320×240	11	23	46	75
SQ	160×120	46	93	186	300

・一度のシャッタボタン全押しで、連続して撮影できる音声付動画の最長時間です。コントロールパネルや液晶モニタに表示される撮影可能時間は、使用しているカードに記録できる残り時間です。

静止画撮影モードで撮影できる枚数が0になったときは

・撮影可能枚数が0になると「ピー」という音が鳴り、緑ランプが点滅し、液晶モニタには「撮影可能枚数が0です」と表示されます。再度電源を入れたときも同じです。（P. 206参照）
このような場合は、新しいカードや空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してカードに空き容量を作るなどの処置をとってください。（P. 63/145参照）

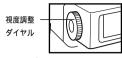
メモ

・撮影できる枚数は画質モードやカードの容量によって変わります。
・画質モードの設定はP. 102をご覧ください。

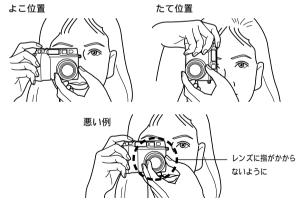
注意

・**数値は全ておおよその目安です。**
・**撮影毎にカウンタが減らなかったり、1コマ消去しても増えない場合があります。**
・**撮影対象によりデータ量が異なる為、枚数が若干増減することがあります。**

ファインダーを見やすくする

1 **視度調整ダイヤルをまわし、AFターゲットマークが鮮明に見える位置に合わせます。**

ファインダー

カメラの構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

注意

- **レンズに無理な力を加えないでください。**
- **レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。**
- **たて位置の時は、フラッシュが上になるようにお持ちください。**

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンの押し方には2つのステップがあります。
撮影を始める前に練習しましょう。

1 軽く押します。（半押し）

● ピントと画像の明るさ（露出）が固定されます。
● ファインダー横の緑ランプが点灯します。
● 被写体がAFターゲットマークから外れるときは、フォーカスロックをします。
（P. 70参照）

シャッターボタン

2 「半押し」した状態をさらに押し込みます。（全押し）

● 撮影が行われ「ピピッ」と音がします。
● カードへの書込中はカードアクセスランプが点滅します。

緑ランプが点滅したら

0.8mより近付いて撮影するときは、マクロモードに設定してください。（P. 76参照）被写体の条件によっては、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。（ピントの合いにくいもの　P. 68参照）

ファインダー
緑ランプ（点滅）

注意

・**シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。**

撮影する

静止画を撮影する

P　A/S/M

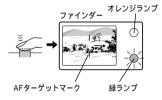
1 モードダイヤルを「P」にします。

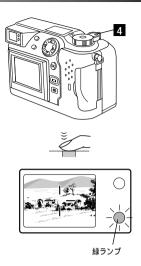
●「A/S/M」にしても撮影できます。（P. 80〜83参照）

2 ファインダーをのぞき、ズームレバーを操作して、構図を決めます。（P. 64参照）

● ファインダーのAFターゲットマーク中央に被写体を入れます。
● 構図よりもやや広い範囲が撮影されます。

3 シャッターボタンを半押しします。

● ピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。
● 中央以外の被写体にピントを合わせたいときは、フォーカスロックをします。（P. 70参照）
● ピントと画像の明るさが固定されないと、緑ランプが点滅します。「ピントの合いにくいもの」（P. 68参照）も参照してください。
● フルタイムAF（P. 71参照）を設定していると、シャッターボタンを半押ししなくてもピント合わせの動作を繰り返しますので、ピントが合うまでの時間が短縮されます。

4 そのままシャッターボタンを全押しします。

- 「ピピッ」と音がすれば、撮影は完了です。
- 緑ランプが点滅し、カード記録が始まります。
- カード記録中は、カードアクセスランプが点滅しています。
- レックビューをオンに設定していると、カード記録中に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
- ファインダー横の緑ランプの点滅が終わると、次の撮影ができます。
- 緑ランプの点滅中にシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。（緑ランプの点滅時間は画質モード等により異なり、約0.5〜43秒以内に終わります。）
- 液晶モニタを使って撮影すると、カメラのメモリの状態が確認できます。（P. 55参照）
- 撮影時の音声をメモすることもできます。（P. 112参照）

オレンジランプが点灯したら

フラッシュが自動的に光ります。（フラッシュを使って撮影する（オート発光）P. 65参照）

メモ

・実際に撮影される画面と光学ファインダーで見ている画面では、被写体の距離によってずれが発生します。その場合は、液晶モニタを使って撮影してください。

注意

・カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

・ファインダー横のオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中です。消灯してからシャッターボタンを押してください。

液晶モニタを使って静止画を撮影する

液晶モニタを使うと実際に写る範囲を確認しながら撮影することができます。

P　A/S/M

1 モードダイヤルを「P」にします。

- 「A/S/M」にしても撮影できます。（P. 80〜83参照）

2 （液晶モニタボタン）を押して、液晶モニタを点灯させます。

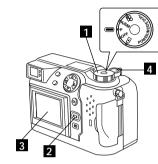
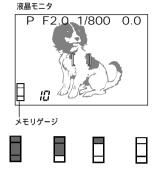
- 再度ボタンを押すとモニタは消灯します。
- 「A/S/M」の時は自動的に液晶モニタが点灯します。

3 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

4 ファインダーを使った撮影と同じ手順で撮影してください。

- 液晶モニタのメモリゲージの一番下が点灯し、カード記録が始まります。
- カードに残量がある限り、記録中でもメモリゲージに空があれば続けて撮影は可能です。
- 2枚目以降を撮影すると、メモリゲージの中央が点灯します。

液晶モニタ

シャッター

- バッファメモリに空きがなくなると、メモリゲージの一番上が点灯し、次の撮影ができません。再びメモリゲージに空きができると、撮影画像のモニタ表示が消え、ファインダー横の緑ランプの点滅が終わり、次の撮影ができます。
- レックビュー（P. 175参照）をオフに設定していると、撮影画像のモニタ表示はありません。
- レックチェック（P. 176参照）を設定していると、撮影画像を保存するか消去するかの選択ができます。

全く撮影していないとき　一枚撮影　一枚以上撮影　撮影不可能

注意

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。
- 液晶モニタの画像は構図確認のためのもので、ピント・露出等の詳細な状態を表示できるものではありません（ファインダーとして利用時および、モニタ再生時共に）。特に大切なシーンの撮影では、必ずパソコンの画面で確認をしてください。
- 液晶モニタを使って撮影した場合は、使わないときよりも書き込み時間が長くなります。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
- 晴天下のように明るい場所で撮影したとき、わずかに縦スジ（スミア）が入る場合があります。液晶モニタが見にくい場合は、光学ファインダーをお使いください。
- 液晶モニタを見ながらの撮影も可能ですが、ファインダーからのぞく方がカメラぶれは起こりにくく、楽に撮影ができます。また、モニタをオフにした方が電池を消耗せず、より長時間の撮影が可能となります。
- 構図よりもやや広い範囲が撮影されます。

動画を撮影する 🎥

撮影中の音声も同時に記録します。音声を記録しないようにすることもできます。(P. 114参照)

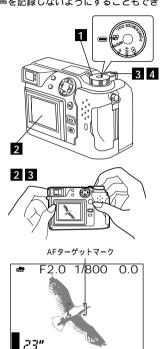
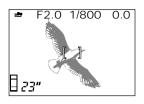
1 **モードダイヤルを「🎥」にします。**

2 **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**

3 **シャッターボタンを半押しします。ピントと露出が固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。**

- 中央以外の被写体にピントを合わせたいときは、フォーカスロックをします。(P. 70参照)
- ピントと画像の明るさが固定されないと、緑ランプが点滅します。「ピントの合いにくいもの」(P. 68参照)も参照してください。

4 **撮影を始めるには、シャッターボタンを全押しします。再度、シャッターボタンを押すと、撮影は終わります。**

- 液晶モニタに撮影可能秒数が残りの撮影できる時間を示します。
- 液晶モニタのメモリゲージの一番下が点灯し、カード記録が始まります。
- 撮影時間が約1秒を超えると、メモリゲージ中央が点灯します。

● バッファメモリに空きがなくなると、メモリゲージの一番上が点灯し、撮影ができません。カードアクセスランプの点滅が終了すると次の撮影ができます。
● レックチェックを設定していると、画像を記録する前に撮影画像を保存するか消去するかの選択ができます。（P. 176参照）
● 音声を同時記録して撮影しているときは、フォーカスロックしたところでピントが固定されます。近景から遠景など著しく異なる対象を撮影する場合は、一度撮影を止めて再度ピントを合わせてください。撮影中、常にピント合わせを行わせるには、録音モードをオフにしてください。（P. 114参照）

5 カードアクセスランプが点滅してカードへの記録がはじまります。

● カード記録が終わるまでは、メモリゲージに空きがあっても次の撮影はできません。
● カードアクセスランプの点滅が終わると、カードへの記録は完了です。カードに残り容量がある場合は、つづけて撮影ができます。

注意

- **レックチェックを設定しているときは、撮影時間が長いと撮影後しばらくは液晶モニタに何も表示されないことがあります。これは画像処理中により起こるもので、故障ではありません。**
- **静止画像に比べ、画質が粗くなる場合があります。**
- **構図よりもやや狭い範囲が撮影されます。**
- **液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。**
- **液晶モニタの画像は構図確認のためのもので、ピント・露出等の詳細な状態を表示できるものではありません（ファインダーとして利用時および、モニタ再生時共に)。特に大切なシーンの撮影では、必ずパソコンの画面で確認をしてください。**
- **被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。**
- **液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが､故障ではありません。**
- **晴天下のように明るい場所で撮影したとき、わずかに縦スジ（スミア）が入る場合があります。**

撮影した画像を確認／消去する

静止画を再生する（簡単再生）

撮影した画像をすぐに再生したいときは、撮影モードのままでも ▭（液晶モニタボタン）を使い、再生できます。再生中でも撮影したい場合はすぐに撮影モードに戻ることもできます。

P　A/S/M

1 ▭（液晶モニタボタン）をすばやく2回続けて押します。

- 液晶モニタが点灯し、最新の画像が表示されます。
- モードダイヤルを ▶ にしても、撮影した画像が表示できます。（1コマ再生）

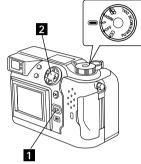
2 十字ボタンを使えば、カードの中の他の画像も表示することができます。

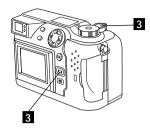
▷：次の画像を表示

◁：一つ前の画像を表示

△：10コマ前の画像を表示

▽：10コマ先の画像を表示

- 画像の情報（設定されている項目／日時／ファイルネームなど）を見るには、P. 137をご覧ください。
- 動画を再生するときは 🎥 マークのついた画像を選択します。（P. 60参照）

3 **撮影モードに戻るには、再度 [■]（液晶モニタボタン）を押すかシャッターボタンを半押しします。**

メモ

・テレビに接続して表示しているときは、縦位置で撮影した画像を見やすいように回転することもできます。（P.135参照）

注意

- **カメラで自動的につけられるファイル名、フォルダ名以外の名前の画像については、再生はできません。（P. 181参照）**
- **電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、0.5～2秒程してから画像が表示されるのは故障ではありません。**
- **液晶モニタは指などで強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像がきれいに表示できなくなるばかりか、液晶モニタが割れる危険性があります。**
- **カメラでは音声は聞けません。テレビに接続すれば、撮影した画像および音声を再生することができます。（P.185参照）**

動画を再生する（ムービー再生）

撮影した動画を再生します。

1 **簡単再生（P. 59参照）、またはモードダイヤルを ▶ にして、撮影画像を表示させます。（P. 130参照）**

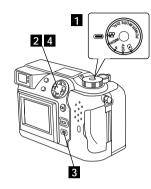
P. 59参照

2 **十字ボタンで マークのついた画像を選択します。**

3 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

4 **十字ボタンで「ムービー再生」を選択し、▷ を押して「スタート」を選択します。**

● キャンセルする場合は、（メニューボタン）を押してください。

5 OKボタンを押します。

● カードアクセスランプが点滅して、読み出しが終わると、ムービー再生が始まります。

一時停止にするには...

再生中にOKボタンを押します。
もう一度押すと再生を続けます。

再生終了後か、一時停止中は十字ボタンでコマ送りができます。

△：動画の最初を表示します。
▽：動画の最後を表示します。
▷：ボタンを押すたびに、コマが進みます。押し続けている間、再生します。
◁：ボタンを押すたびに、コマが戻ります。押し続けている間、逆再生します。

再生終了後にOKボタンを押すと、再び最初から再生します。

6 ☰（メニューボタン）を押して、ムービー再生モードから抜けます。

● 他のコマを選択するときは、再び ☰（メニューボタン）を押してメニュー画面を消してから、十字ボタンで選択します。

簡単再生から早く撮影モードに戻りたいときは

シャッターボタンを半押しします。ムービー再生中やメニュー画面表示していても、すぐにファインダーが点灯して、被写体が表示されます。
モードダイヤルを ▶ にしている場合、この機能は使えません。

画像を消去する（1コマ消去）

不要な画像を消すことができます。静止画を消したいときも、動画を消したいときも操作は同じです。消去を行う前に、画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていないか、あるいは画像を消さない設定（プロテクト　P．134参照）がされていないかを確認してください。全ての画像を一度に消したいときは、全コマ消去（P．145参照）をご覧ください。

1 **十字ボタンで消去したい画像を選択します。**

● にした直後は、最後に撮影した画像が表示されます。

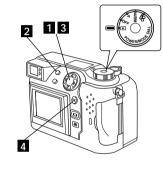
2 **（消去ボタン）を押します。**

● 消去するかどうかの確認画面が表示されます。

3 **△ ▽を押して、「実行」を選択します。**

● キャンセルする場合は、「中止」を選択して、OKボタンを押すか（消去ボタン）を押します。

4 **OKボタンを押すと、表示中の画像が消去されます。**

＊ インデックス再生モード（P．130参照）、クローズアップ再生モード（P．132参照）でも、1コマ消去ができます。

確認画面

注意

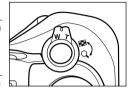
・ **消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊されるおそれがありますので十分ご注意ください。**

望遠や広角撮影をする（ズーム）

ズーム倍率3倍で、望遠や広角撮影ができます。メニューの「デジタルズーム」を「オン」に設定すると（P. 77参照）、さらに倍率を大きくすることができます。

P　A/S/M

被写体をより大きく撮影するには（望遠）

ズームレバーを T側へまわします。

被写体をより広く撮影するには（広角）

ズームレバーを W側へまわします。

W
T

● （動画撮影）モードで録音モードがオン（P. 114参照）のときは、デジタルズームのみになります。光学ファインダーの画像は、ズームに連動して変化しません。効果は、液晶モニタで確認してください。また、デジタルズームのときは、倍率が大きくなると画像が粗くなります。
● 動画撮影時のデジタルズームでは、ズーム動作中画像が多少ぶれます。

メモ

・ P/A/S/M（静止画撮影）モードでは、デジタルズームモードと組み合わせると、最大15倍ズーム相当（記録サイズ640×480のとき）の撮影ができます。（P. 77参照）
・ 設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。

フラッシュを使って撮影する（オート発光）

フラッシュが必要なときには、シャッターボタンを半押しするとファインダー横のオレンジランプが点灯します。フラッシュモードが「オート発光」になっていると、暗いときや逆光時にフラッシュが自動的に光ります。他のフラッシュモードについてはP．116をご覧ください。初期設定は「オート発光」になっています。

P　A/S/M

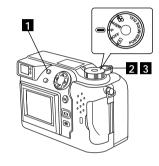
1 コントロールパネルに 、、 が表示されていないのを確認します。

● いずれかの表示があれば、（フラッシュモードボタン）を押して、その表示を消します。（フラッシュの発光パターンを選ぶ　P．116参照）

2 シャッターボタンを半押しします。

● ファインダー横のオレンジランプが点灯したら、フラッシュが光るしるしです。
● オレンジランプが点滅しているあいだは、フラッシュは充電中です。点滅が終わるのを待ってから、シャッターボタンを押してください。

3 シャッターボタンを全押しします。

● フラッシュが光ります。

逆光の被写体を撮影するとき

被写体をAFターゲットマークに合わせて撮影してください。

フラッシュの光が届く範囲

・広角時：約0.8 ～ 5.6 m
・望遠時：約0.2 ～ 3.8 m

ファインダー

AFターゲットマーク

メモ

・ 被写体に合わせてフラッシュの発光量を補正することができます。（P. 119参照）

注意

- **マクロ撮影時、特にズームが広角のときは、画像の一部が欠けたり光量ムラが発生することがありますので、ご注意ください。撮影後は必ず液晶モニタで再生して確認してください。**
- **外部フラッシュの使用方法は、P. 123をご覧ください。**
- **連写モード（P. 104参照）ではご使用になれません。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

CAMEDIA

Chapter

3

ピント合わせ

・*この章では、ピントの合わせ方、ズームの操作など、効果的な撮影に必要な操作について説明しています。*

ピントの合いにくいもの(オートフォーカスの苦手な被写体)

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下1～3のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅するときがあります。また、4、5のような被写体では、ファインダー横の緑ランプが点灯し、シャッターが切れてもピントが合っていないときがあります。その場合は以下の方法または、マニュアルフォーカス（P. 74参照）で撮影してください。

1 コントラストのない被写体

・被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック（P. 70参照）した後、構図を決めて撮影してください。

2 縦線のない被写体

・カメラを縦位置に構えてフォーカスロック（P. 70参照）した後、構図を横にもどして撮影してください。

3 画面中央に極端に明るいものがある被写体

・被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック（P. 70参照）した後、構図を決めて撮影してください。

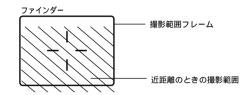
4 遠いものと近いものが混在する被写体

・オートフォーカスして緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック（P. 70参照）してから構図を決めて撮影してください。

5 動きの速い被写体

・あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック（P. 70参照）してから、構図を決めて撮影してください。

撮影距離について

ファインダーの撮影範囲フレームは、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて写る範囲が下に移動します。
（ズームを望遠側へ回すと移動量は大きくなります。）

撮影は 0.2 m ～ ∞ （無限）の範囲で行ってください。

・ 0.2 mより近い距離でもシャッターは切れますが、ピントと露出が合わないことがあります。
・ 近距離での撮影は、液晶モニタをファインダーとして使用することをおすすめします。実際に撮影される範囲がモニタに表示されますので、撮影が容易にできます。
・ 液晶モニタを使用すると電池消耗が早くなります。

撮影距離

マクロモード	0.2 m ～ 0.8 m （P. 76参照）
通常モード	0.8 m ～ ∞

中央以外の被写体にピントを合わせる（フォーカスロック）

撮影したい構図にしたときに、ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークから外れる（中央にない）場合は、以下の操作でピントを合わせます。これをフォーカスロックといいます。

P　A/S/M

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

● 同時に画像の明るさ（露出）も固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

ファインダー横の緑ランプが点滅したらピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、ファインダー横の緑ランプが点灯するまで、手順1を繰り返します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図までカメラを動かします。

3 シャッターボタンを全押しします。

ピント合わせの時間を短くする（フルタイムAF）

シャッターボタンを操作していないときも、カメラが常にレンズの前のものにピントを合わせる動作を繰り返します。シャッターボタンを半押しせずに、全押ししたときにシャッターが切れるまでの時間（タイムラグ）を短縮できます。
設定しない場合は、「オフ」にします。「オフ」はシャッターボタンを半押しするまで、ピントは合いません。

P　A/S/M

1 ▤（メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。

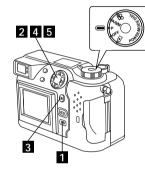
3 OKボタンを押します。

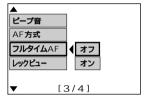
● モード設定画面が表示されます。

4 △ ▽ を押して「フルタイムAF」を選択し、▷ を押します。

5 △ ▽ を押して、「オン」か「オフ」を選択します。

「オン」：カメラが撮影モードに設定されているときは、常に自動的にピントを合わせる動作を繰り返します。
「オフ」：シャッターボタンを半押しするまで、カメラはピントを合わせません。

3
ピント合わせ

6 **OKボタンを押すと設定が保存されて、モード設定画面に戻ります。**

7 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

注意

- **フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。**
- **液晶モニタを点灯させていないときは、フルタイムAFは動作していません。液晶モニタを点灯させてご使用ください。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

ピント合わせのエリアを選択する（AF方式）

被写体の焦点を合わせるエリアを選択します。

iESP　：画面のほぼ全体からピントを合わせる被写体を自動的に判断します。通常はこの設定で撮影してください。（初期設定）

スポット：ファインダーのAFターゲットマークで狙ったものを中心にピントを合わせます。

P　A/S/M

1 ▤（メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。

3 OKボタンを押すと、モード設定画面が表示されます。

4 △ ▽ を押して「AF方式」を選択し、▷ を押します。

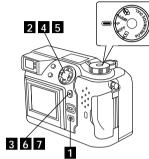
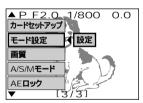
5 △ ▽ を押して「iESP」または「スポット」を選択します。

6 OKボタンを押すと設定が保存されて、モード設定画面に戻ります。

7 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

ピントを自分で合わせる(マニュアルフォーカス)

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ選択できます。オートフォーカスの合いにくい被写体でも、液晶モニタを見ながらピントを合わせることができます。

P　A/S/M　(動画)

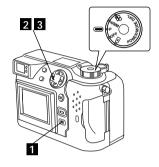
1 (メニューボタン)を押します。を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して、「AF/MF」を選択し、▷を押します。

● メニューが消え、液晶モニタに撮影距離の選択画面が表示されます。

3 ▷を押して「MF」を選択します。

● コントロールパネルに「 MF 」が表示され、液晶モニタの距離表示のカーソルが移動できるようになります。
● キャンセルする場合は ◁ を押して「AF」を選択し、コントロールパネルの「 MF 」が消えたら、OKボタンを押します。

コントロールパネル

マニュアルフォーカス

4 △ ▽ を押して、距離を選択します。

● 操作中、液晶モニタの表示は拡大されますので、ピントの確認が容易にできます。
● 0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に20cm～80cmの目盛りに切り替わります。
● この状態でシャッターボタンを押すと、撮影できます。

5 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、画面に赤でMFと表示されます。
● MFを解除したいときは、1 ～ 2 の操作を行い、液晶モニタに「MF」が選択されている画面を表示させた後、◁ を押して「AF」を選択し、OKボタンを押します。

注意

- **フラッシュ使用時は、フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **液晶モニタの距離表示はあくまでも目安です。**
- **動画撮影中、フォーカス位置を変更できません。**

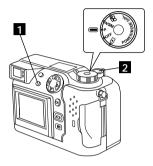
近くにあるものにピントを合わせる（マクロモード）

近くにあるものを撮影するときに使います。
ズームが望遠側（T端）にあるときで被写体に20cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影することができます。
実際に写る範囲とファインダで見える範囲が異なりますので、液晶モニタをファインダとしてお使いください。

P　A/S/M

1 　/（スポット/マクロボタン）を押して、コントロールパネルに「　（マクロモード）」を表示させます。

● マクロモードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまで /（スポット/マクロボタン）を押します。

2 撮影します。

コントロールパネル

マクロモード

撮影距離

約0.2 ～ 0.8 m

注意

- **フラッシュ使用時には影が目立つ場合があります。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **マニュアルフォーカス（P. 74参照）にしているときは、マクロモードに設定できません。**

さらに倍率を拡大する（デジタルズームモード）

光学ズームの最大倍率からさらに最大5倍（記録サイズ640×480の時）まで倍率を拡大できます。光学3倍ズームと組み合わせて、最大15倍ズーム相当の撮影が可能です。

P　A/S/M

1 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

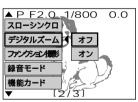
2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「デジタルズーム」を選択し、▷ を押します。**

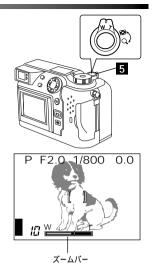
3 **△ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。**

● この状態で撮影できます。

4 **OKボタンを押します。**

● 設定が保存されてメニュー画面から抜けます。

3 ピント合わせ

5 ズームレバーをT側へ回して拡大表示します。

- 液晶モニタにズームバーが表示されます。バーの白い領域が光学ズームを、赤い領域がデジタルズームを表しています。
- デジタルズームを使用中でも液晶モニタをオフにすると、自動的にデジタルズームモードは解除されます。

記録サイズとデジタルズームの倍率

記録サイズ	デジタルズーム倍率
2048×1536	1～2.5倍
1600×1200	1～3.2倍
1280×960	1～4.0倍
1024×768	1～5.0倍
640×480	1～5.0倍

注意

- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **液晶モニタをオフにすると、設定は解除されて1倍に戻ります。**
- **デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなることがあります。**

CAMEDIA

Chapter

4

目的に合わせた撮影

・*この章では、撮影場面、明るさ／露出、色／画質など、撮影目的に合わせた操作方法を説明しています。撮影シーンに応じて各項目をお読みになり目的に合わせた撮影を行ってください。*

「A/S/M」ダイヤルの機能を設定する

モードダイヤルで「A/S/M」に設定したときの撮影モードを「A（絞り優先撮影)」「S（シャッター優先撮影)」「M（マニュアル撮影)」の中から選択できます。絞り優先撮影では絞り値、シャッター優先撮影ではシャッター速度、マニュアル撮影ではその両方を自分で設定して撮影できます。

P　A/S/M

1 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「A/S/Mモード」を選択し、▷ を押します。**

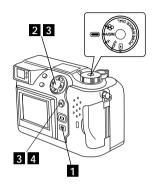
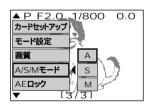
3 **△ ▽ を押して、「A」「S」「M」のどれかを選択し、OKボタンを押します。**

● 各撮影モードの使い方については、それぞれの撮影モードの説明をお読みください。（P. 80 ～83）

● この状態でも撮影できます。

4 **OKボタンを押します。**

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

メモ

・ モードダイヤルを「A/S/M」にセットしたときに、どの撮影モードになっているかは、液晶モニタで確認してください。

注意

・ **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

ピントの合う範囲を重視して撮影する（絞り優先撮影）

絞り値を自分で設定できます。シャッタースピードは、カメラが自動的に設定します。絞り値を変えることで、背景の描写に変化をつけられます。

A/S/M

1 メニュー画面でA/S/Mモードを「A（絞り優先撮影モード）」に設定します。

- 撮影モードの選択はメニュー画面で行います。A/S/Mモードの設定（P. 80参照）をご覧ください。
- 絞り値が緑色で表示されます。

2 十字ボタンを押して、F値（絞り値）を設定します。
F値（絞り値）を大きくするには△を押します。
F値（絞り値）を小さくするには▽を押します。

4

目的に合わせた撮影 【撮影場面】

メモ

・モードダイヤルを「A/S/M」にセットすると、ISO感度は自動的に100に設定されます。ISO感度は100・200・400から選択できます。

注意

- **フラッシュが自動的に発光する設定の時は、シャッター速度は1/30秒よりも低速にはなりません。**
- **設定値で適正露出が得られないときは、絞り値が赤く表示されます。▽が表示されているときは、絞り値を小さくします。△が表示されているときは、絞り値を大きくします。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

動きを重視して撮影する（シャッター優先撮影）

シャッタースピードを高速にすることで動きを止めたり、逆に低速にすることで流動感のある撮影ができます。

A/S/M

1 メニュー画面でA/S/Mモードを「S（シャッター優先撮影モード）」に設定します。

- 撮影モードの選択はメニュー画面で行います。A/S/Mモードの設定（P. 80参照）をご覧ください。
- シャッター速度が緑色で表示されます。

2 十字ボタンを押して、シャッター速度を設定します。
シャッター速度を速くするには△を押します。
シャッター速度を遅くするには▽を押します。

メモ

・モードダイヤルを「A/S/M」にセットすると、ISO感度は自動的に100に設定されます。ISO感度は100・200・400から選択できます。（P. 95参照）
シャッター速度範囲は、ISO設定によって変わりません。

シャッター速度選択範囲：4〜1/800（秒）

注意

- **設定値で適正露出が得られないときは、シャッター速度が赤く表示されます。▽が表示されているときは、シャッター速度を遅くします。△が表示されているときは、シャッター速度を速くします。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

絞り値とシャッター速度を自分で決めて撮影する（マニュアル撮影）

絞り値とシャッター速度を撮影目的に合わせ、自分で設定します。適正露出かどうかは、ファインダー内の露出状態表示で確認できます。

A/S/M

1 メニュー画面でA/S/Mモードを「M（マニュアル撮影モード）」に設定します。

- 撮影モードの選択はメニュー画面で行います。A/S/Mモードの設定（P. 80参照）をご覧ください。
- 絞り値とシャッター速度が緑色で表示されます。

2 十字ボタンで絞り値（F値）とシャッター速度を設定します。
絞り込む（F値を大きくする）には、◁を押し、絞りを開く（F値を小さくする）には、▷を押します。
シャッター速度を速くするには、△を押し、遅くするには、▽を押します。

- シャッター速度は16〜1/800秒で選択できます。

メモ

・モードダイヤルを「A/S/M」にセットすると、ISO感度は自動的に100に設定されます。ISO感度は100・200・400から選択できます。

注意

- **設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラの適正露出との露出差が−3.0〜＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。**
- **露出が−3.0EVよりもアンダー、または+3.0EVよりオーバーのときは、表示が赤くなります。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

被写体の明るさを変えて撮影する（露出補正）

カメラが自動的に決めた露出にセットされますが、＋/－2段の範囲で約1/3段刻みの補正が可能です。白いものを白く表現したいときは、＋の補正を、黒いものを黒く表現したいときは、－の補正をすると効果的です。

P　A/S/M

1 「P」の時は、液晶モニタONにします。

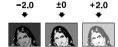
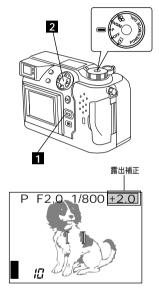
●「A/S/M」のときは、「絞り優先撮影モード」または「シャッター優先撮影モード」に設定しておきます。（P. 80参照）

●「A/S/M」や「」のときは自動的に液晶モニタが点灯します。
上部に露出補正値が表示されます。

2 ＋へ補正するには、十字ボタンの ▷ を押します。

－へ補正するには、◁ を押します。

● 0以外の設定をすると、コントロールパネルに が表示されます。

注意

- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **露出補正すると液晶モニタの明るさも変わりますが、うす暗い被写体では変化しにくくなります。そのときは撮影画像を再生してご確認ください。**
- **フラッシュ撮影時は狙いどおりの補正ができない場合があります。**

被写体の明るさを変えて連続撮影する（オートブラケット）

1度の撮影で明るさを変えた複数の画像を記録することができます。ピント・ホワイトバランスは、最初に設定され、連写中は固定されます。連写枚数も設定できます。

P　A/S/M

1 （メニューボタン）を押します。

- メニュー画面が表示されます。
- 「A/S/M]のときは、「絞り優先撮影モード」または「シャッター優先撮影モード」に設定しておきます。（P. 80参照）

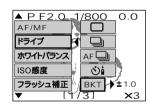
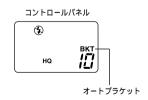
2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ドライブ」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「BKT」を選択し、▷ を押します。

4 △ ▽ を押して、明るさ（露出）の段階を選択し、▷ を押します。

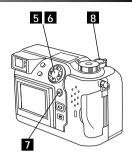
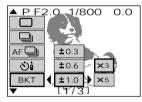
コントロールパネル

5 **△ ▽ を押して撮影枚数を選択します。**

6 **◁ を2回押して、設定を確認します。**

7 **メニューが消えるまで繰り返しOKボタンを押します。設定が保存されます。**

● OKボタンを押さずに撮影すると、再度 ☰（メニューボタン）を押すまで設定が有効になります。

8 **撮影します。**

● 撮影中にシャッターボタンから指をはなすと、撮影途中でも撮影は終わります。設定枚数終了すると、撮影は終了します。

注意

- **ピントとホワイトバランスは1コマ目に決定されます。**
- **静止画撮影の「プログラム撮影モード」、「絞り優先撮影モード」または「シャッター優先撮影モード」のときにお使いいただけます。**
- **TIFF以外の画質モードでお使いいただけます。**
- **設定枚数以上の空きがバッファにないと、次の撮影はできません。**
- **フラッシュは使用できません。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

被写体の明るさを測って撮影する（スポット測光モード）

撮影する被写体の明るさを測って撮影します。
このカメラではデジタルESP測光とスポット測光の2種類の測光方法があり、あらかじめデジタルESP測光の測光方法に設定されています。
デジタルESP測光では構図の中央部と周辺部を別々に測光し、最適な露出を選択します。
スポット測光では中央部のみを測光するため、逆光などで被写体が暗くなる時に背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露光で撮影できます。
🌷/⊡（スポット/マクロボタン）を押すたびに、以下のモードに切り替わります。

設定項目	機能・目的
→ 標準 ↓	デジタルESP測光・ 通常オートフォーカス。
スポット測光モード ⊡ ↓	中央部のみを測光します。
マクロモード 🌷 ↓	接写の時に。（P. 76参照）
マクロ＋スポット測光モード ⊡ 🌷	接写時のスポット測光。 （P. 89参照）

P　A/S/M　🎥

1 コントロールパネルに「⊡（スポット測光モード）」が表示されるまで、🌷/⊡（スポット/マクロボタン）を押します。

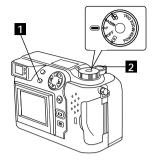
● スポット測光モードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまで数回 🌷/⊡（スポット/マクロボタン）を押します。

2 撮影します。

コントロールパネル

スポット測光マーク

注意

- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

被写体がマクロ撮影範囲内にある時のスポット測光モード

被写体がマクロ撮影範囲内にあるとき、背景が明るい場合も適正露出で撮影できます。

P　A/S/M　🎥

1 コントロールパネルに「⊡🌷（マクロ+スポット測光モード）」が表示されるまで、🌷/⊡（スポット/マクロボタン）を押します。

● マクロ+スポット測光モードを解除するには、コントロールパネルの表示が消えるまで繰り返し🌷/⊡（スポット/マクロボタン）を押します。

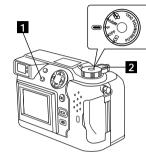
2 撮影します。

コントロールパネル

マクロ+スポット測光マーク

注意

- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

露出を固定して撮影する

撮影前に方法を選択する（AEロック設定）

OKボタンを押したときに働くAEロックに関する機能が選択できます。「シングル」を選択するとAEロック、「マルチ」を選択するとマルチ測光の機能が働きます。また「オフ」を選択するとどちらの機能も働きません。
「オフ」に設定してあるときの露出はシャッターボタンを半押ししたときに固定されます。

P　A/S/M

1 （メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「AEロック」を選択し、▷ を押します。

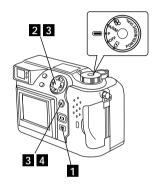
3 △ ▽ を押して、「オフ」「シングル」「マルチ」のどれかを選択し、OKボタンを押します。

● AEロック（シングル）については、P. 91をご覧ください。
● マルチ測光（マルチ）についてはP. 93をご覧ください。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

注意

- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

露出を固定する(AEロック)

OKボタンを押すと、カメラを向けている構図での露出を固定します。撮影したい構図と露出を合わせたい構図とが異なるときに使います。あらかじめ「AEロック」の設定を「シングル」にしてください。(P. 90参照)
A/S/Mモードが「M」に設定されていると、AEロックはできません。

P　A/S/M

1 露出を合わせたい構図にしてOKボタンを押します。

- 液晶モニタが点灯し、露出記憶中を示すに AEL マークが表示されます。
- 「AEロック」の設定が「マルチ」になっていると、測光メータが表示されます。「シングル」にしてください。(P. 90参照)

固定した露出を変えたいときは
カメラを構え直して、再びOKボタンを押します。OKボタンを押すたびに、露出は更新されます。

AEロックを取り消すには
十字ボタンの ▷ を押します。AEL表示が消えます。

記憶した露出を撮影後も記憶させておくには(AEメモリ)
◁ を押します。MEMO と表示されます。

液晶モニタ

OK 露出を合わせたい構図でロックします。

撮影したい構図にします。

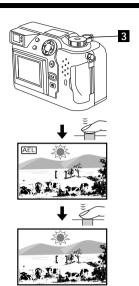
2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯します。
- ピントとホワイトバランスが固定されます。

4 目的に合わせた撮影 【明るさ/露出】

3 シャッターボタンを押し切ります。

● 撮影が終わると、AEロックは解除され AEL の表示は消えます。
● MEMO が表示されているときは、シャッターを切ったあとも露出は記憶されていて、次の撮影でも有効です。
● シャッターボタンを半押ししてから、AEロックすることもできます。

メモ

・スポット測光モードでも使用できます。

AEロックが解除されるとき

以下の場合は、AEロック、AEメモリともに解除されます。

・▷ボタンを押す
・モードダイヤルの設定を変える
・（スポット/マクロボタン）を押して測光モードを変える
・ドライブモードを変える
・（メニューボタン）を押して、メニュー画面を表示する
・液晶モニタを消す

注意

・**メニュー画面を表示していると、AEロックはできません。**
・**露出補正を同時に行うことはできません。**

明るさの平均を測る(マルチ測光)

被写体の明るさを最大8点まで測り、その平均値で撮影条件を決めます。
あらかじめ「AEロック」の設定を「マルチ」にしてください。(P. 90参照)
A/S/Mモードが「M」に設定されていると、マルチ測光はできません。

P　A/S/M

1 露出を合わせたい構図にして、OKボタンを押します。

- 液晶モニタが点灯し、マルチ測光の状態を示す測光バーが表示されます。(P. 94参照)
- この操作を繰り返して最大8回まで測光できます。9回目以降は受け付けません。
- 測光した部分の平均値で露出が決まります。

マルチ測光を取り消すには
十字ボタンの ▷ を押します。すべての測光値が消えます。

マルチ測光で算出した露出を撮影後も記憶させておくには(AEメモリ)
◁ を押します。MEMO と表示されます。

2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯します。
- ピントとホワイトバランスが固定されます。

液晶モニタ

露出を合わせたい構図でロックします。

測光バー
(P. 94)

撮影したい構図にします。

4 目的に合わせた撮影 【明るさ/露出】

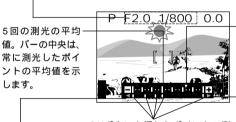
3 シャッターボタンを押し切ります。

- 撮影が終わると、測定値は消えます。
- MEMO が表示されているときは、シャッターを切ったあとも、露出は記憶されていて、次の撮影でも有効です。
- シャッターボタンを半押ししてから、マルチ測光することもできます。

例：5つのポイントを測光した場合（OKボタンを5回押した場合）

5回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

5回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。

レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。
（OKボタンを押さないと、平均値の計算にはここの値は含まれません。）

OKボタンを押したポイントの測光値。◆の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央から離れた位置に◆が表示されます。

平均値を示すバーの中央から、◆が±3以上離れると、赤い ◁ ▷ が表示されます。

メモ

- スポット測光モードでも使用できます。あらかじめスポット測光モードにしてからマルチ測光を行なえば、AFターゲットマーク部分で測光した側の平均値で撮影できます。ただし、マルチ測光中に測光モードを変えると解除されます。
- マルチ測光が解除されるのは、AEロックが解除されるとき（P. 92参照）と同じ条件です。

感度を固定して撮影する(ISO感度設定)

感度を上げると、暗いところでも速いシャッタースピードで撮影できます。感度をオート、約100固定、約200固定（約2倍感度アップ)、約400固定（約4倍感度アップ）の中から選択できます。
オート（A/S/Mモード以外）では被写体の条件に合わせて、自動的に感度を変えます。オート以外は、数値が大きいほど、明るさが不足する状況で撮影できます。

P　A/S/M　🎥

1 ☰（メニューボタン）を押します。

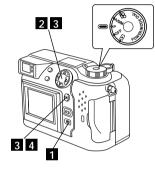
● メニュー画面が表示されます。

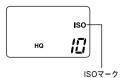
2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ISO感度」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押してISO感度を選択し、OKボタンを押します。

● オート以外を選択すると、コントロールパネルに「ISO」が表示されます。
●「A/S/M」モードのときは、「100」「200」「400」から選択できます。
● この状態でも撮影できます。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

（画面は静止画撮影メニューです）

コントロールパネル

注意

- **感度は銀塩写真のフィルムの感度を基準に設定していますが、数値は目安です。**
- **「オート」を選択しているときにモードダイヤルを「A/S/M」にセットすると、ISO感度は100に設定されます。**
- **オートを選択したとき、暗い所でフラッシュ不使用の場合は、手ぶれ防止のため自動的に感度が上がります。**
- **感度を上げると画像にノイズが増えます。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

色合いを選んで撮影する(プリセットホワイトバランス)

オートでは思い通りの仕上がりになりにくい光源のときなどは、プリセットホワイトバランスを選ぶことにより、より良い仕上がりになります。

P　A/S/M　🎥

1 ▤(メニューボタン)を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの△▽を押して「ホワイトバランス」を選択し、▷を押します。

3 △▽を押して「プリセット」を選択し、▷を押します。

● オートで撮影するときは、ここで「オート」を選択し、OKボタンを押します。

(画面は静止画撮影メニューです)

4 △▽を押して設定したい項目(下記参照)を選択し、OKボタンを押します。

●「☼(晴天)」、「☁(曇天)」、「電球(電球)」、「蛍光灯(蛍光灯)」の中から選択します。

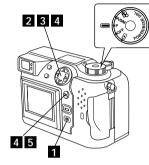
● コントロールパネルに「**WB**」が表示されます。

● この状態でも撮影できます。

コントロールパネル

マニュアルホワイトバランスマーク

5 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

注意

- **通常はオートに設定してお使いください。**
- **特殊な光源下では対応できない場合があります。**
- **設定クリア(P. 165参照)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **色の確認は必ず液晶モニタで画像を再生して行ってください。**

色合いを決めて撮影する（ワンタッチホワイトバランス）

オートやプリセットでは思い通りの仕上がりにならないときは、白い光にしたい光源をカメラに記憶させて撮影できます。記憶された光源を基準に、カメラが全体の色のバランスを調整します。

P　A/S/M

1 ☰（メニューボタン）を押します。

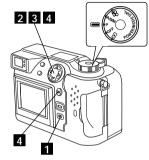
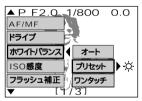
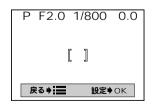
● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ホワイトバランス」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「ワンタッチ」を選択します。

● オートで撮影するときは、ここで「オート」を選択し、OKボタンを押します。

4 ▷ を押して「設定」を選択し、OKボタンを押します。

● 液晶モニタにワンタッチホワイトバランス登録画面が表示されます。

（画面は静止画撮影メニューです）

5 白い紙を光源の下の光が当たるようなところに置くか、人に持ってもらい、ファインダーいっぱいに入るようにして、OKボタンを押します。

- ホワイトバランスが登録され、液晶モニタで効果が確認できます。適切な設定になるまで繰り返しOKボタンを押してください。

6 ▤（メニューボタン）を押してワンタッチホワイトバランス設定画面から抜けます。

- 再度設定しなおすときは、4からの操作を繰り返してください。
- ワンタッチホワイトバランスを使用しないときは、「オート」を選択してOKボタンを押してください。
- この状態でも撮影できます。

7 OKボタンを押します。

8 再びOKボタンを押すと、設定が保存されてメニュー画面から抜けます。

- 画像再生時の情報表示では、ワンタッチホワイトバランスは ⎕ で表示されます。（P. 138参照）

画面は静止画再生時（情報表示オン）

注意

- **調整しきれない場合があります。色の確認は必ず液晶モニタで画像を再生して行ってください。**
- **通常はオートに設定してお使いください。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

色合いを調整して撮影する（ホワイトバランス補正）

ホワイトバランスを微調整することができます。色あいを微妙に調整したいときにお使いください。

P　A/S/M

1 **（メニューボタン）を押します。**

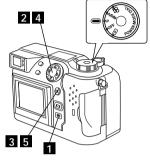
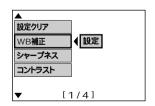
● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

（画面は静止画撮影メニューです）

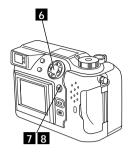
3 **OKボタンを押します。**

● モード設定画面が表示されます。

4 **△ ▽ を押して、「WB補正」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

5 **OKボタンを押します。**

6 ◁ ▷ を押してホワイトバランスを微調整します。

● 中央が標準（補正無し）です。
● ▷ を押すと青味がかった色合いになります。
● ◁ を押すと赤味がかった色合いになります。

7 OKボタンを押すと設定が保存されて、モード設定画面に戻ります。

8 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

注意

・通常は標準（補正無し）に設定してお使いください。
・電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

記録する画質を設定する（画質の設定）

撮影する画像の画質（クォリティ）を選択します。
静止画撮影の場合、画質の種類は「TIFF」「SHQ」「HQ」「SQ1」「SQ2」の5種類。画質は「SQ2」→「SQ1」→「HQ」→「SHQ」→「TIFF」の順に高くなり「TIFF」が最も高画質です。画質が高いほど引き伸ばしてプリントしたときの画像はきれいです。また、SQ2、SQ1、HQに比べてSHQ、TIFFは記録・再生時間は長くかかります。動画撮影の場合、画質の種類は「HQ」「SQ」の2種類。画質は「SQ」→「HQ」の順に高画質になります。

P　A/S/M

1 （メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「画質」を選択し、▷を押します。

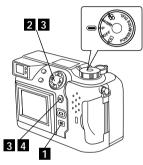
3 △ ▽を押して記録サイズを選択し、OKボタンを押します。

● コントロールパネルに画質モードが表示されます。
● 静止画撮影の場合、TIFFの画質での記録サイズ、SQ1とSQ2の画質での記録サイズと画質の組み合わせを設定することができます。（P. 171～173参照）
● この状態でも撮影できます。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

（画面は静止画撮影メニューです）

コントロールパネル

静止画の画質モード

各画質モードであらかじめ設定されている記録画素数と圧縮率は以下のとおりです。

画質モード	TIFF	SHQ	HQ
記録画素数	2048×1536		
圧縮	非圧縮	低圧縮 JPEG	標準JPEG

画質モード	SQ1	SQ2
記録画素数	1280×960	640×480
圧縮	標準 JPEG	

動画の画質モード

各画質モードの記録画素数は以下のとおりです。

画質モード	HQ	SQ
記録画素数	320×240	160×120
秒間コマ数	15コマ／秒	

注意

- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **圧縮率が低いほど、引き伸ばしたときの画像はきれいです。また、SQ1、SQ2、HQに比べてSHQ、TIFFは記録・再生時間は長くかかります。**
- **画質モードの設定により、撮影可能枚数・秒数は変わります。（P. 49参照）**

連続して撮影する（連写モード）

連続撮影したいときに使います。シャッターボタンを押している間、連写ができます。シャッターボタンをはなすと、連写が止まります。
最大3.3コマ/秒の連写が可能です。

P　A/S/M

1 （メニューボタン）を押します。

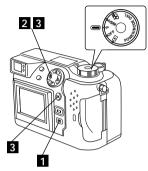
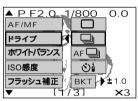
● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ドライブ」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「（連写）」か「AF（AF連写）」を選択し、OKボタンを押します。

● コントロールパネルに「」が表示されます。
●「（連写）」を選択すると、最初の1コマで、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが固定されます。
●「AF（AF連写）」を選択すると、1コマごとに、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが測定され、変更されるので、連写速度は遅くなります。
● 画質モードがTIFFになっているときは選択できません。画質モードの設定を変えてください。（P. 102参照）
● この状態でも撮影できます。

コントロールパネル

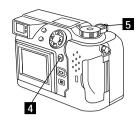
HQ
10

連写マーク

4 OKボタンを押します。

- 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。
- 最大5コマまでの連写ができます。

5 撮影します。

- シャッターボタンを押している間、連写できます。
- シャッターボタンをはなすと、連写は止まります。

注意

- **連写モードでは、内部フラッシュはご使用になれません。（自動的に発光禁止になります）**
- **外部フラッシュ使用時は、連写速度に追従できる設定をおすすめします。**
- **TIFF以外の画質モードでご使用いただけます。**
- **連写撮影後、連写モードを切り換えても、カード記録が終了するまで次の撮影はできません。**
- **シャッタースピードはカメラぶれを抑えるため最長1／30秒に設定されています。暗い被写体では通常より暗く写る場合があります。**
- **連写撮影中は、液晶モニタの表示はありません。光学ファインダを使って撮影してください。**
- **設定クリア（P．165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **AF連写では、連写速度が遅くなります。**

セルフタイマーやリモコンを使って撮影する

セルフタイマーやリモコンを使って撮影ができます。記念写真などを撮影するときに便利です。
カメラを三脚などにしっかりと固定させてください。

P　A/S/M

1 (メニューボタン)を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの△▽を押して静止画の場合は「ドライブ」、動画の場合は「セルフタイマー／リモコン」を選択し、▷を押します。

3 △▽を押して静止画の場合は「」、動画の場合は「オン」を選択し、OKボタンを押します。

● コントロールパネルに「」が表示されます。
● この状態でも撮影できます。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

(画面は静止画撮影メニューです)

コントロールパネル

セルフタイマー／リモコン

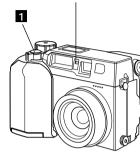
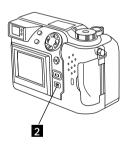
注意

・ **設定クリア(P. 165参照)をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されませんが、セルフタイマーを使った撮影後は解除されます。**

セルフタイマーを使った撮影のしかた

P　A/S/M　🎥

セルフタイマー／リモコンシグナル

1 シャッターボタンを押すと、カメラ前面のセルフタイマー／リモコンシグナルが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後にシャッターが切れます。

2 作動中のセルフタイマーを途中で止めるには、☰（メニューボタン）を押します。

注意

- **セルフタイマーで撮影後、セルフタイマー／リモコンモードは解除されます。**

リモコンを使った撮影のしかた

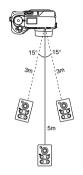
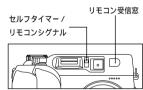
P　A/S/M　ムービー

1 **構図を決めてカメラを設置したら、リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのWまたはTボタンを押します。**

● カメラのセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅します。

2 **リモコンのシャッターボタンを押すと、カメラのセルフタイマー／リモコンシグナルが点滅し、約3秒後にシャッターが切れます。**

● シャッターボタンを押しても、セルフタイマー／リモコンシグナルが点滅しない場合は、カメラに近づいて再度シャッターボタンを押します。（電波が混信している時はシグナルが点滅しないので、リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。）

メモ

・リモコンを使った再生のしかたは、P. 136をご覧ください。

注意

・**太陽下など明るい環境では、リモコン電波の到達距離が短くなります。**
・**リモコン受信窓に強い光をあてないでください。**
・**撮影後もセルフタイマー／リモコンモードは解除されません。**

特殊効果で撮影する(ファンクション撮影)

モノクロは白黒で、セピアはセピア色で撮影できます。白板は白板上に書いた文字を、黒板は黒板上に書いた文字をそれぞれ読みやすく撮影します。モードダイヤルが 🎥 のときは、モノクロとセピアのみです。

P　A/S/M　🎥

1 ▤（メニューボタン）を押します。

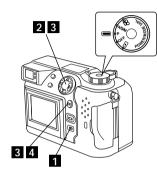
● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ファンクション撮影」を選択し、▷を押します。

3 △ ▽ を押して「モノクロ」「セピア」「白板」「黒板」の中から選択し、OKボタンを押します。

● 動画撮影の場合は、「白板」と「黒板」は選べません。
● この状態でも撮影できます。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。
● 静止画撮影の場合、ファンクション撮影モードでの撮影中は、自動的に液晶モニタが点灯します。

（画面は静止画撮影メニューです）

注意

- **「白板」「黒板」を選択すると、フラッシュは ⚡（発光禁止モード）になります。（P. 118参照）**
- **「白板」「黒板」を選択して文字がきれいに撮影されない場合は、露出補正をしてください。（P. 84参照）**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**
- **モードダイヤルを「 🎥 」にセットすると、「白板」と「黒板」はオフに戻ります。**
- **ホワイトバランスの設定はできません。**

パノラマ撮影する

オリンパスの標準スマートメディア（カード）には、パノラマモードが付いており、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（別売）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成します。

P

1 （液晶モニタボタン）を押して、液晶モニタを点灯させます。

2 （メニューボタン）を押します。

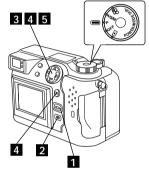
● メニュー画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「機能カード」を選択します。

4 ▷ を押して、「実行」を選択し、OKボタンを押します。

5 十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右4方向に指定します。

● つなげる方向が表示されます。

4 目的に合わせた撮影 【その他の撮影】

6 被写体の端が重なるようにして、撮影します。

● 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

前に撮影した画像の右端（左回りの時は左端）に重なるように撮影してください

7 パノラマ撮影を終わるときは、（メニューボタン）を押します。

● 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注意

- **標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。**
- **パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、別売のCAMEDIA Masterをご使用ください。**
- **ピント・露出・ホワイトバランスとも1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。**
- **1枚目を撮影した後は、ズーム操作をしないでください。つなぎ合わせができなくなります。**
- **HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンのメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。**
- **パノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。**
- **TIFF（非圧縮）でパノラマ撮影をすると、SHQモードで記録されます。**

音声録音の設定をする

静止画撮影時に音声をメモする

撮影したときの様子をメモがわりに音声でのこしておけます。撮影後、約4秒間の録音ができます。

P　A/S/M

1 **（メニューボタン）を押します。**

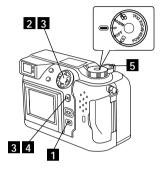
● メニュー画面が表示されます。

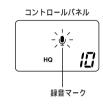
2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「録音モード」を選択し、▷ を押します。**

3 **△ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。**

● コントロールパネルに、録音マークが表示されます。
● この状態でも撮影できます。

4 **OKボタンを押します。**

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

5 撮影をします。

● シャッターが切れて、約0.5秒後から録音が始まります。録音中は緑ランプとコントロールパネルの録音マークが点滅し、液晶モニタには「録音中」を示すバーが表示されます。

コントロールパネル

メモ

・ 撮影後の静止画にアフレコで、音声をつけられます。（P．139参照）

注意

- **TIFFモードではできません。（再生モードでのアフレコはできます）**
- **録音は、撮影後のカードへの画像の記録前に行われます。撮影後は液晶モニタやコントロールパネルの表示を確認して、カメラの録音マイク（P．20参照）を録音したい対象の方向へ向けておいてください。**
- **対象がカメラから1m以上離れると、きれいに録音されません。**
- **録音中は、次の撮影はできません。**
- **ドライブモードが連写・AF連写またはオートブラケットのときは、設定できません。**

動画撮影時に音声録音の設定をする（ムービー録音）

動画撮影時に音声を録音しないように設定することができます。雑音が気になるときや音声を録音する必要のないときなどにお使いください。音声を録音しないようにすると、同じ容量のカードを使ってより長時間の動画の撮影が可能となります。

1 ☰（メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

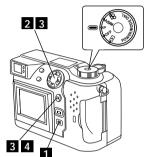
2 十字ボタンの △ ▽ を押して「録音モード」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「オン」または「オフ」を選択し、OKボタンを押します。

● この状態でも撮影できます。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

メモ

・ムービー録音をオンにしている場合、ズームはデジタルのみになります。オフにすると光学ズームでの撮影ができます。

注意

・**設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

CAMEDIA

Chapter

フラッシュ撮影

5

・*この章では、フラッシュを使った撮影の操作について説明しています。内部フラッシュだけでなく、外部フラッシュを使った場合の操作についても説明しています。*

フラッシュの発光パターンを選ぶ

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。フラッシュ撮影のしかたについては、P. 65をご覧ください。

オート発光以外を選択すると、フラッシュモードがコントロールパネルに表示されます。

ϟ（フラッシュモードボタン）を押すたびに、以下のフラッシュモードに切り替わります。

設定項目	機能・目的
オート発光（P. 65/117参照） 表示なし	暗いときや逆光のとき、自動的に発光します。
赤目軽減発光（P. 117参照） ◉	目が赤く写ってしまう現象を軽減します。
強制発光（P. 118参照） ϟ	必ず発光させたいときに。
発光禁止（P. 118参照） ⓧ	暗いところでも発光させたくないときに。

フラッシュ撮影可能範囲

広角時：約0.8 ～ 5.6 m　　望遠時：約0.2 ～ 3.8 m

メモ

・ 被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することができます。（P. 119参照）

注意

- **オレンジランプが点滅しているときは、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。いったんシャッターボタンから指をはなし、オレンジランプが消灯してから撮影してください。**
- **マクロ撮影時、特にズームが広角のときは、画像の一部が欠けたり光量ムラが発生することがありますので、ご注意ください。撮影後は必ず液晶モニタで再生して確認してください。**
- **外部フラッシュの使用方法は、P. 123をご覧ください。**
- **連写モード（P. 104参照）ではご使用になれません。**

自動的にフラッシュを発光させる（オート発光）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

ファインダー

モニター

AFターゲットマーク

逆光の被写体を撮影するときは、被写体をAFターゲットマークに合わせて撮影してください。

目が赤く写る現象を軽減する（赤目軽減発光）

目が赤く写る現象を軽減します。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

注意

- **シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。**
- **フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。**

フラッシュを常時発光させる（強制発光）

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

コントロールパネル

強制発光マーク

注意

- **フラッシュ撮影可能範囲（P. 66参照）内で撮影してください。**
- **非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。**

暗いところでも発光させない（発光禁止）

暗いところでも発光させたくないときに。
このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などで撮影するときに使います。

コントロールパネル

フラッシュ発光禁止マーク

注意

- **シャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。動く被写体はぶれて写ります。**

フラッシュの光量を補正する(フラッシュ露出補正)

光をよく反射するものや被写体が小さくて背景が遠いなど、撮影する被写体によっては、フラッシュの光量を増減させたほうがよいときがあります。

P　A/S/M

1 (メニューボタン)を押します。

● メニュー画面が表示されます。
●「A/S/M」のときは、「絞り優先撮影モード」または「シャッター優先撮影モード」に設定しておきます。(P. 80参照)

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「フラッシュ補正」を選択し、▷を押します。

3 △ ▽ を押してフラッシュの露出補正量を設定し、OKボタンを押します。

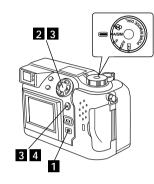
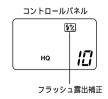
● コントロールパネルに「 」が表示されます。
● △を押すごとに1/3EV ステップで+補正、▽ を押すごとに1/3EV ステップで−補正されます。±2EV の範囲で補正できます。EVとは補正値の単位です。
● この状態でも撮影できます。

4 OKボタンを押します。

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

コントロールパネル

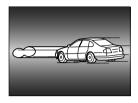
フラッシュ露出補正

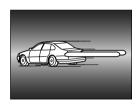
5 フラッシュ撮影

注意

- 専用外部フラッシュで「TTL-AUTO」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、両方同時にフラッシュの発光量を補正します。
- 専用外部フラッシュで「MANUAL」を選択し、内蔵フラッシュと併用する場合は、内蔵フラッシュの発光量のみ補正します。
- シャッタースピードが速い場合はフラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

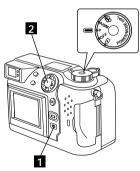
フラッシュの発光タイミングを選ぶ（スローシンクロ）

遅いシャッター速度で周囲の状況を捉え、最初または最後にフラッシュを発光させる撮影方法です。夜間撮影に便利です。

「先幕効果」：撮影の最初にフラッシュが発光します。走行中の自動車を撮影した場合、ヘッドライトの光が走行方向に流れて撮影されます。

「後幕効果」：撮影の最後にフラッシュが発光します。走行中の自動車を撮影した場合、テールランプの光が尾を引いて撮影されます。

P　A/S/M

1 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「スローシンクロ」を選択し、▷ を押します。**

3 **△ ▽ を押して「先幕効果」または「後幕効果」を選択し、OKボタンを押します。**

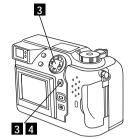
- コントロールパネルに **SLOW** が表示されます。
- 「後幕効果」では、内部フラッシュが予備発光と本発光の2回発光します。
- この状態でも撮影できます。

4 **OKボタンを押します。**

- 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

コントロールパネル

スローシンクロモード

メモ

・専用外部フラッシュをご使用のときは、外部フラッシュも同じ設定で発光します。

注意

- **シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使い、カメラがぶれないように撮影してください。**
- **内部フラッシュ、外部フラッシュの両方に適用されます。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

外部フラッシュ撮影

専用外部フラッシュFL-40（別売）で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュのみを使っての撮影および、内部フラッシュと併用しての撮影もできます。
専用外部フラッシュとカメラの接続には、必ず専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）をご使用ください。それ以外の方法では、FL-40は市販の外部フラッシュと同じ機能しかできません。

専用外部フラッシュを使って撮影する

専用外部フラッシュを使う場合、カメラのフラッシュモード、露出設定を自動的に検出するため、内部フラッシュと同様に扱うことができます。
内部フラッシュと外部フラッシュの併用は、外部フラッシュをバウンスさせ、内部フラッシュでキャッチライト効果を得る等、高度なフラッシュ撮影が可能になります。初期設定で内部＋外部の発光になっています。

P　A/S/M

1 外部フラッシュ端子のキャップを外します。

● ネジ式ですので、廻して外してください。

2 外部フラッシュFL-40を専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをフラッシュブラケットとカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

● 専用外部フラッシュ・フラッシュブラケット・ブラケットケーブルそれぞれの取扱説明書もお読みください。

3 **カメラのモードダイヤルを「P」または「A/S/M」にします。**

●「A/S/M」の場合は、液晶モニタが点灯します。

4 **外部フラッシュの電源を入れます。**

● 外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。

5 **カメラのフラッシュモードを選択します。**

● フラッシュモードには「オート発光」「赤目軽減モード」「強制発光モード」「発光禁止モード」があります。（P. 116参照）

メモ

・ スローシンクロも設定できます。（P. 121参照）

注意

・ 近距離撮影時、露出オーバーになる場合があります。内部フラッシュをお使いください。
・ 内部フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内部フラッシュは補助光源として発光しますので、FL-40の光量が不足する場合は露出アンダーとなります。

専用外部フラッシュのみを使って撮影する

外部フラッシュのみを使用するか内部フラッシュと外部フラッシュを併用するかを選択します。外部フラッシュを使用する場合にカメラの電池消耗を防ぐために内部フラッシュを発光しないように設定できます。

P　A/S/M

1 **外部フラッシュFL-40を専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをフラッシュブラケットとカメラの外部フラッシュ端子に接続します。**

2 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

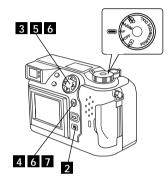
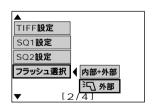
3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷を押して「設定」を選択します。**

4 **OKボタンを押します。**

● モード設定画面が表示されます。

5 **△ ▽ を押して「フラッシュ選択」を選択し、▷を押します。**

6 **△ ▽ を押して「外部」を選択し、OKボタンを押します。**

7 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

注意

- **電源を切っても、変更を加えられるまで保存されます。**
- **外部フラッシュの状態により、誤発光することがあります。**
- **FL-40とカメラの接続には必ず専用フラッシュブラケットと専用のブラケットケーブルをご使用ください。それ以外の方法では、FL-40は市販の外部フラッシュと同じ機能しかできません。**

市販の外部フラッシュを使って撮影する

専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）を使って、市販の外部フラッシュも使用できます。
接続できる外部フラッシュの条件については、使用できる市販の外部フラッシュについて（P. 128参照）をお読みください。

A/S/M

1 外部フラッシュを専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

外部フラッシュ端子

2 Mに設定します。（P. 83参照）

- 絞り値とシャッター速度を設定します。
- シャッター速度を遅く設定すると、ぶれて撮影されることがあります。

3 **外部フラッシュの電源を入れます。**

4 **外部フラッシュを外部フラッシュ側で発光させる設定にします。また、外部フラッシュのISO・絞り値をカメラのISO・絞り値に合わせます。**

● 外部フラッシュでのモードの選択の方法は、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

5
フラッシュ撮影

注意

- 市販の外部フラッシュをご使用の場合、外部フラッシュのみの発光はできません。
- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
- 市販ストロボをご使用になる前に以下の点にご注意ください。
  - 市販のフラッシュにはシンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用したとき、フラッシュの構造にもよりますが正常に機能しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様についてはフラッシュのメーカーにお問い合わせください。
  - 市販のフラッシュにはシンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談ください。
- お使いになるフラッシュがカメラに同調するかどうか、あらかじめ確認してからお使いください。
- FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく故障の原因となることがありますので使用しないでください。
- オリンパスの専用フラッシュのご使用をおすすめします。

使用できる市販外部フラッシュについて

外部フラッシュを選定する際に、下記の基本条件を満たす製品をご使用ください。

（1）外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。
外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
（2）外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正はできません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）
（3）照射角度は35mmフィルム換算で、35mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。
（4）フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。
（5）FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますので使用しないでください。

CAMEDIA

Chapter

6

撮影画像の再生／加工／消去

・*この章では、撮影した画像の再生、加工、消去の操作について説明しています。*

複数の画像を一度に表示する(インデックス再生)

ズームレバーをW側にまわすと、1つの画面に複数の画像（4/9/16コマ）を表示させることができます。多数の画像の中から、見たい画像を素早く検索したいときに便利です。このときの分割数を変えるには、P. 131をご覧ください。

1 **ズームレバーをW側にまわします。**

- 手順1で表示された画像を含む複数の画像が、1秒後にインデックス再生されます。

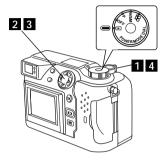
2 **十字ボタンの ◁ ▷ を押して選択枠を移動させることができます。**

◁: 左へコマ移動します。

▷: 右へコマ移動します。

3 **△を押すと画面左上の画像のひとつ前の画像を含む複数の画像が表示されます。▽を押すと、画面右下の画像の次の画像を含む複数の画像が表示されます。**

4 **ズームレバーをT側にまわすと、選択されている画像が1コマ再生されます。**

メモ

・ 表示コマ数は4、9、16コマの中から選べます。（P. 131参照）

一度に表示する画像の枚数を選択する（4/9/16コマ）

再生時、ズームレバーをW側にまわすと、1つの画面に複数の画像を表示できます。このときに4分割・9分割・16分割のうちどれにするかを、ここで設定します。

1 **(メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

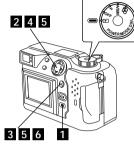
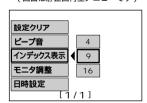
3 **OKボタンを押します。**

● モード設定画面が表示されます。

4 **△ ▽ を押して「インデックス表示」を選択し、▷ を押します。**

5 **△ ▽ を押して、「4」、「9」、「16」から選択し、OKボタンを押します。**

6 **メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。**

● 設定が保存されます。

（画面は静止画再生メニューです）

注意

- **カードに画像が記録されていないと、（メニューボタン）を押してもメニュー画面は表示されません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

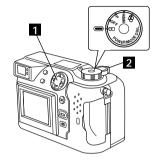
画像を拡大して表示する（クローズアップ再生）

ズームレバーをT側にまわすごとに、画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍に拡大することができます。

1 十字ボタンで拡大したい画像を選択します。

●「 」のついた画像は、拡大できません。

2 ズームレバーをT側にまわします。

● ズームレバーをT側にまわすごとに、倍率が1.5倍→2倍→2.5倍→3倍に変化します。
● 1倍に戻すにはズームレバーをW側にまわします。

ズーム範囲を選択するには

十字ボタン（ ◁ ▷ △ ▽ ）を押すと、拡大した画像をずらして、画面内の ◀ ▶ ▲ ▼ の方向を見ることができます。

拡大したい画像を変更するには

ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻し、拡大したい他の画像を選びます。

6

撮影画像の再生／加工／消去

複数の画像を1枚ずつ自動的に再生する（自動再生）

スライドを見るときのように、カードに記録されている画像を1枚ずつ自動的に再生させることができます。

1 十字ボタンで静止画を選択します。

2 （メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して、「自動再生」を選択します。

● キャンセルする場合は （メニューボタン）を押します。

4 ▷ を押して「スタート」を選択します。

5 OKボタンを押します。

● 自動再生が始まります。
● 自動再生を中止するには、（メニューボタン）を押します。

注意

- **自動再生は、一巡しても止まりません。 （メニューボタン）を押して終了させてください。**
- **長時間にわたって自動再生を行う場合には、家庭用コンセントを使用してください。電池をお使いの場合、自動的に機能が約30分後に終了します。**

誤って画像を消さないようにする（画像プロテクト）

残しておきたい画像にプロテクト（消去禁止）をかけます。

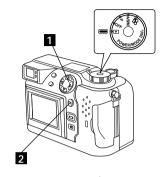
1 **十字ボタンでプロテクトをかける画像を選択します。**

2 **OKボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。**

- 🔑 が表示されます。
- プロテクトを解除するには、その画像が表示された状態で、再度OKボタンを押すと、🔑 が消えてプロテクトが解除されます。

＊ インデックス再生中（P. 130参照）、クローズアップ再生中（P. 132参照）でも、プロテクトの設定、解除ができます。

プロテクトマーク

注意

- **プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、初期化すると（フォーマット→P. 147参照）消滅します。**
- **ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作は一切できません。**
- **テレビと接続して再生しているときは、プロテクトをかけたり解除することはできません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

テレビに表示する

撮影した画像および音声を同梱のAVケーブルを使ってテレビで再生することができます。

接続の前にテレビとカメラの電源が切れていることを確認してください。

1 AVケーブルをカメラのA/V出力端子（黒色）に接続し、テレビの映像入力端子（黄色）と音声入力端子（白）に接続します。

2 テレビの電源を入れます。

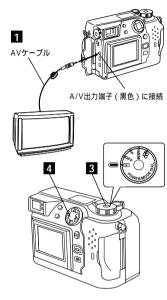
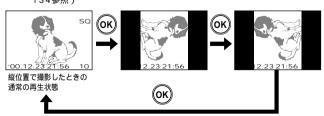
3 モードダイヤルを「▶」にします。

4 十字ボタンで再生したい画像を選択します。

- 選択した画像がテレビに再生されます。
- テレビに接続している場合、縦位置で撮影した画像を見やすいように回転させる機能もあります。OKボタンを押すたびに、「右90度」「左90度」「回転なし」の順に表示されます。（ただし、動画の場合は回転できません）
- テレビに接続していないときにOKボタンを押すと、画像にプロテクトがかかります。（P.134参照）

縦位置で撮影したときの通常の再生状態

・動画の場合は回転できません。

6 撮影画像の再生／加工／消去

[リモコンを使う場合]

リモコンで操作を行う場合はカメラのリモコン受信窓にリモコンを向けてください。＋/－ボタンで画像を選択し、Wボタンでインデックス再生します。Tボタンを押すとクローズアップ再生になり、そこで＋/－ボタンを押すと選択範囲を左右方向にのみ移動できます。

注意

- **テレビに接続すると液晶モニタは消灯します。**
- **テレビによっては画面表示位置が中央からずれる場合があります。**
- **テレビによっては画像の外側に、黒い枠が表示されることがあります。ビデオプリンタでプリントの際に黒枠が目立つ場合がありますので、プリントの仕上がりをご確認ください。**
- **画像をテレビで再生する場合は、カメラの電源はACアダプタ（別売）をお使いになることをおすすめします。**

画像情報を表示する

再生時、画像の撮影情報（カメラの設定、日時、ファイルネーム等）を液晶モニタに表示させることができます。5秒間画像情報が表示されます

1 **十字ボタンで情報を表示させたい画像を選択します。**

2 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

3 **△ ▽ を押して「画像情報表示」を選択し、▷ を押します。**

● キャンセルする場合は、（メニューボタン）を押します。

4 **△ ▽ を押して「オン」を選択し、OKボタンを押します。**

5 **OKボタンを押します。**

● 設定が保存されて、メニュー画面から抜けます。

● 画像情報は5秒間表示されて消えます。再度表示させたいときは （メニューボタン）を2回押します。

（画面は静止画再生メニューです）

6
撮影画像の再生／加工／消去

静止画の画像情報表示

※ ワンタッチWBのときは、
を表示します。（P. 99参照）

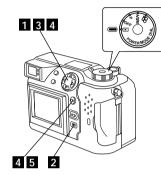
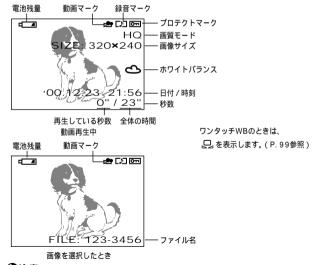
動画の画像情報表示

電池残量　動画マーク　録音マーク
プロテクトマーク
HQ　画質モード
SIZE: 320×240　画像サイズ
ホワイトバランス※
'00.12.23 21:56　日付／時刻
0" / 23"　秒数
再生している秒数　全体の時間

動画再生中

※ ワンタッチWBのときは、
を表示します。（P. 99参照）

電池残量　動画マーク
FILE: 123-3456　ファイル名

画像を選択したとき

注意

- **画像情報を表示しているときは、コマ番号は表示されません。**
- **設定クリア（P. 165参照）をオフにすれば、電源を切っても設定は解除されません。**

撮影した静止画にあとから音声メモをつける（アフレコ）

撮影済みの画像に音声をつけること（アフレコ）や、すでにメモされている音声を書き換えることもできます。

1 十字ボタンでアフレコしたい静止画を選択します。

2 ☰（メニューボタン）を押します。

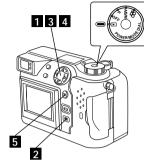
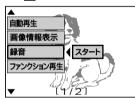
● メニュー画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「録音」を選択します。

● キャンセルする場合は ☰（メニューボタン）を押します。

4 ▷を押して「スタート」を選択します。

5 OKボタンを押して、録音を開始します。

● 録音時間は約4秒間です。
● 録音中を示すバーが表示されます。

注意

- **録音したいものから、カメラを1m以上離さないでください。離すと、きれいに録音されないことがあります。**
- **ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには録音できません。**
- **カードの残り容量が少ない場合は、録音できないことがあります。**
- **録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい録音のみ残ります。**

撮影した動画を加工する（ファンクション再生）

撮影した動画のインデックスを作ったり、画像の編集を行います。

インデックス作成

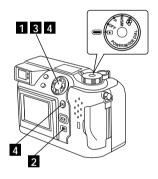
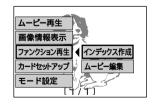
撮影した動画の内容が一目でわかるように、インデックスを作成できます。また、作成したインデックスは静止画としてカードに保存できます。作成できるインデックス画像は、9分割のみです。
作成されたインデックス画像は、撮影時の画質モードとは違うモードで保存されます。

1 **十字ボタンで「 」のついた画像を選択します。**

2 **（メニューボタン）を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して「ファンクション再生」を選択し、▷ を押します。**

4 **△ ▽ を押して「インデックス作成」を選択し、OKボタンを押します。**

5 **◁ ▷ を押して、撮影した動画のコマの中から、インデックス表示の先頭コマを選択します。確定したら、OKボタンを押します。**

- 十字ボタンの △ を押すと先頭コマが、 ▽ を押すと最終コマが表示されます。この時、最後尾コマ画像を残して他のコマは表示が切り替わります。
- 左下に動画全体の時間と選択している最後尾の時間が表示されます。

▷：動画を先へ進めます。

◁：動画を後戻りさせます。インデックス表示するために必要なコマまでしか、先へ進めることはできません。

6 **◁ ▷ を押して、撮影した動画のコマの中から、インデックス表示の最後尾コマを選択します。**

- 先頭コマを選択するときと同じように、十字ボタンを使って画像を選択できます。このとき、先頭コマ画像を残して他のコマは表示が切り替わります。
- ☰（メニューボタン）を押すと、先頭コマの選択へ戻ります。

7 OKボタンを押すと作成されたインデックス画像がカードに記録されて、メニュー画面から抜けます。
作成されたインデックス画像の記録モードは、下記のとおりです。
HQ → SQ2 （1024 x 768/高画質）
SQ → SQ2 （640 x 480/高画質）

注意

- 作成できるインデックス画像は、9分割のみです。
- 次のようなカードでは、インデックス作成はできません。
  - プロテクトされたカード。
  - 撮影モードにしたとき、カード残量がないことを告げる警告が出るカード。

ムービー編集

記録したムービーから不要な部分を削除したり、編集して新しい画像として記録します。

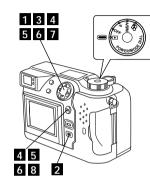
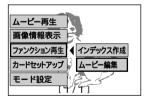
1 十字ボタンで「 」のついた画像を選択します。

2 （メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「ファンクション再生」を選択し、▷を押します。

4 △ ▽ を押して「ムービー編集」を選択し、OKボタンを押します。

5 ◁ ▷ を押して、先頭フレームを表示します。確定したら、OK ボタンを押します。

● 十字ボタンの △ を押すとムービーの先頭フレームが、▽ を押すと最終フレームが表示されます。

6 ◁ ▷ を押して、最終フレームを表示します。確定したら、OK ボタンを押します。

● 先頭フレームを選択するときと同じように、十字ボタンの △ ▽ を使ってフレームを選択できます。

7 △ ▽ を押して、「新規作成」か「上書き保存」を選択します。

●「新規作成」は編集した画像を、別の名前で新しい画像として保存します。

●「上書き保存」は編集した画像を、元の名前で保存します。元の画像は失われます。

8 OKボタンを押します。

● 画像が記憶され、メニュー画面から抜けます。

注意

- **撮影モードでカード残量がないという警告が出るカードでは、「新規作成」はできません。**
- **プロテクトされた画像では、上書き保存はできません。**
- **プロテクトされたカードでは、ムービー編集はできません。**

すべての画像を消去する（全コマ消去）

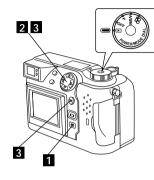
消したい画像にプロテクトがかかっている場合、およびカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、消去できません。消去するにはプロテクトを解除するか、ライトプロテクトシールをはがしてから操作を行ってください。（ライトプロテクトシールは再使用しないでください）

1 ☰（メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「カードセットアップ」を選択し、▷を押します。

3 △ ▽ を押して「全コマ消去」を選択し、OKボタンを押します。

● 確認画面が表示されます。

（画面は静止画再生メニューです）

4 **△ ▽ を押して「実行」を選択します。**

● キャンセルする場合は、「中止」を選択して、OKボタンを押します。

5 **OKボタンを押すとカード内の全画像が消去され、「画像が記録されていません」の表示が出ます。**

● プロテクト（P. 134参照）のかかっている画像は消去されません。この場合は消去後にプロテクト最終コマが表示されます。

注意

- **記録されている画像の枚数により、消去時間は異なります。**
- **誤って大切なデータを消してしまうことのないよう、十分ご注意ください。**
- **消去中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ／電池やカードを抜くと、カード内のデータが破壊されるおそれがありますので十分ご注意ください。**

カードを初期化する（フォーマット）

初期化とはカードを使用機器で書き込みできるフォーマットに変えることです。オリンパス製初期化済みカードのご使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードは、お使いになる前にあらかじめカメラで初期化してください。

P　A/S/M　

1 （メニューボタン）を押します。

● メニュー画面が表示されます。

2 十字ボタンの △ ▽ を押して、「カードセットアップ」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して、「フォーマット」を選択し、OKボタンを押します。

● 確認画面が表示されます。

4 △ ▽ を押して、「実行」を選択します。

● 初期化したくないときは、「中止」を選択します。

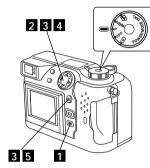
5 OKボタンを押すとカードの初期化が始まります。

● 撮影モードになっている場合は、初期化が終了すると、メニューモードから抜けます。

● 再生モードになっている場合は、「画像が記録されていません」の表示が出ます。

（画面は静止画再生メニューです）

6

撮影画像の再生／加工／消去

注意

- 画像を確認してからの初期化をおすすめします。
- 初期化するとプロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消滅します。使用済みカードを初期化するときには、大切なデータを消さないようにご確認ください。
- オリンパス製以外の市販のカードやパソコンなど他の機器で初期化したカードは、カメラで認識されないことがありますのでお使いになる前にあらかじめこのカメラで初期化してください。
- カードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は、初期化を受け付けません。

CAMEDIA

Chapter

7

プリントの設定

- 記録されている画像をプリンタでプリントできます。
- DPOFシステム対応のプリントサービスを行っているお店などで、自動的にプリントできるように予約ができます。

プリントの方法について

カードに保存されている静止画像をプリントして楽しむことができます。
このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をプリントするには次の方法があります。

1. カードに保存した画像に、プリントする枚数や日付時刻を記憶させます。（カードプリント予約）
カードプリント予約したカードを、DPOF対応プリンタに挿入すると、プリントの設定を行わなくても、自動的に指定した画像がプリントされます。
DPOF対応のプリントサービスを行っているお店などに、カードをお持ちになると、プリントの指示をしなくても、プリント予約を行った画像を自動的にプリントできます。

2. オリンパスCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nプリンタを使うと、プリント予約した撮影画像の入ったカードを、プリンタのカードスロットに差し込んで、簡単なボタン操作でプリントできます。
・詳しくは、プリンタの取扱説明書をお読みください。

3. カメラのUSB機能やパソコン接続キットを使った通信や、フラッシュパス、スマートメディアアダプタを使って、パソコンに画像を取り込み、画像プリント可能なソフトウェアを使うことで、パソコンに接続されているプリンタからプリントできます。
・プリントの方法は、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

DPOFについて
DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマットのことです。
撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラであらたにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されることがあります。
- 「この画像は再生されません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（ 凸 ）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（ 凸 ）が表示され、プリント予約を確認できます。
- オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。

カードの中の全画像をプリントしたい（全コマ予約）

カード内に保存されている全ての画像を、プリントするという指示を記憶します。この予約設定をすることで、DPOF対応のプリンタまたはラボで、自動的に全画像を設定枚数プリントできます。

1 **十字ボタンで静止画を選択します。**

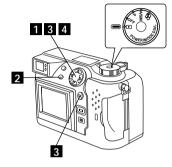
2 **凸（プリントボタン）を押します。**

- プリント予約選択画面が表示されます。
- 再生しているカードの画像に、すでにプリント予約したコマがある場合は、予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。（P．159参照）

3 **十字ボタンの △ ▽ を押して、「全コマ予約」を選択し、OKボタンを押します。**

- プリント枚数と情報プリントの設定画面が表示されます。

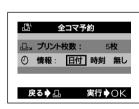
4 **△ ▽ を押して、プリント枚数を選択します。**

5 ◁ ▷ **を押して枚数の設定をします。**

- ◁ を押すと枚数は少なくなり、▷ を押すと枚数は多くなります。
- 枚数は0枚から10枚の間で設定できます。

6 △ ▽ **を押して「情報」を選択します。**

7 ◁ ▷ **を押して、「日付」か「時刻」を選択します。**

8 **設定が終了したらOKボタンを押します。**

- メニュー画面が消えて再生画像が表示されます。
- 画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

プリント予約マーク（ ）が出ない場合

・プロテクトされた画像でも、予約はできます。
・プロテクトシールを貼られたカードではできません。
・ のついた画像はプリント予約できません。

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまでカードに保存されます。**
- **P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

選択した画像のみをプリントしたい(1コマ予約)

カード内に保存されている画像から選択したコマを、プリントする指示を記憶します。この予約設定をすることで、DPOF対応のプリンタまたはラボで、自動的に選択画像を設定枚数プリントできます。

1 十字ボタンで静止画を選択します。

- 🎥のついた画像は、プリント予約できません。

2 凸(プリントボタン)を押します。

- カードプリント予約画面が表示されます。
- 再生しているカードの画像に、すでにプリント予約したコマがある場合は、予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 159参照)

3 十字ボタンの △ ▽ を押して「1コマ予約」を選択し、OKボタンを押します。

- 予約画像選択画面が表示されます。
- ズームレバーをT側に回すと、トリミングプリント(P. 157参照)の設定ができます。

7
プリントの設定

4 十字ボタンを押して、プリント予約したい画像を表示させます。

◁：1コマ前の画像を表示します。
▷：1コマ次の画像を表示します。
△：10コマ前の画像を表示します。
▽：10コマ次の画像を表示します。

● ズームレバーをW側にまわすと、インデックス再生で画像を選択できます。

◁：1コマ前へ移動します。
▷：1コマ次へ移動します。
△：前のページを表示します。
▽：次のページを表示します。

● インデックス表示のときは、インデックス表示のコマ数設定（P.131参照）により、決まります。4コマ設定：2コマ、9コマ設定：6コマ、16コマ設定：12コマ。

5 OKボタンを押します。

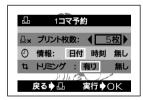
● 1コマ予約の設定メニューが表示されます。

6 △ ▽ を押して「プリント枚数」を選択します。

7 ◁ ▷ を押して枚数の設定をします。

● ◁ を押すと枚数は少なくなり、▷ を押すと枚数は多くなります。
● 枚数は0枚から10枚の間で設定できます。
● 選択している画像に、すでにプリント枚数が設定されている場合は、設定画面が表示されたときに、その枚数を表示します。

予約画像選択画面

7
プリントの設定

8 △ ▽ を押して、「情報」を選択します。

9 ◁ ▷ を押して、「日付」か「時刻」を選択します。

10 △ ▽ を押して、「トリミング」を選択します。

11 ◁ ▷ を押して、「有り」か「無し」を選択します。

● トリミングが設定されてないときは、「有り」は選択できません。
● トリミングの設定は、トリミングプリント予約をご覧ください。（P. 157参照）

12 設定が終了したらOKボタンを押します。

● メニュー画面が消えて、再生画像が表示されます。
● 画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。
● 続けて他の画像をプリント予約するときは、手順4から12を繰り返します。

13 凸（プリントボタン）を押します。

● プリント予約モードから抜け、再生モードに戻ります。

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**
- **P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。**
- **プリント予約には時間がかかることがあります。**

画像の一部を拡大してプリントしたい（トリミングプリント予約）

撮影した画像の一部を拡大して、プリントできます。

1 カードプリント予約画面から「1コマ予約」を選択し、OKボタンを押します。（P. 154参照）

● 予約画像選択画面が表示されます。

2 十字ボタンを押してプリント予約したい画像を表示させます。

◁：1コマ前の画像を表示します。

▷：1コマ次の画像を表示します。

△：10コマ前の画像を表示します。

▽：10コマ次の画像を表示します。

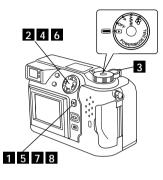
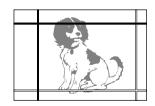
3 ズームレバーをT側にまわします。

● トリミングモードの画面が出て、選択されているカーソルは緑色で表示されます。

4 カーソルを移動してプリントしたい画像の左上端を設定します。

● 十字ボタンの △ ▽ を押して上下、◁ ▷ を押して左右に移動します。

● ズームレバーをW側にまわすと左上端へ、T側にまわすと右下端へ移動できます。

5 位置が決まったら、OKボタンを押します。

トリミングモード画面

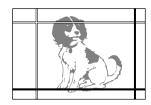
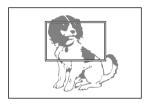
6 カーソルを移動してプリントしたい画像の右下端を設定します。

● 左上のカーソル位置を設定したのと同様な手順で右下のカーソル位置を設定します。
● 十字ボタンの △ ▽ を押して上下、◁ ▷ を押して左右に移動します。
● ズームレバーW側にまわすと左上端へ、T側にまわすと右下端へ移動できます。
● 再度、左上端のカーソル位置を移動したいときは、凸（プリントボタン）を押します。

7 OKボタンを押すとトリミングサイズが設定されて、液晶画面に表示されます。

（1秒間表示します）

8 OKボタンを押します。

● 1コマ予約の画面が表示されます。
● 1コマプリント予約の手順で「プリント枚数」「情報」「トリミング」を設定します。（P. 154参照）
● 続けて他の画像のトリミングプリント予約するときは、1から8を繰り返します。

（設定すると枠付きの画面を1秒表示して、戻る/予約設定の画面に切り替わります）

メモ

・プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントされる画像は粗くなります。

注意

・**詳細なクローズアッププリントを行うためには、TIFF、SHQまたはHQモードでの撮影をおすすめします。**
・**トリミング画面の縦横比は、十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。**

プリント予約を解除する

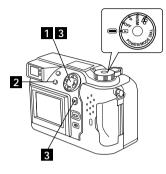
カード内に保存されている画像のプリント予約設定を全て解除します。

1 十字ボタンで静止画を選択します。

2 凸(プリントボタン)を押します。

- カードプリント予約状況確認画面が表示されます。
- 再生しているカードの画像に、プリント予約したコマがない場合は、予約設定解除の選択画面は表示されません。

3 十字ボタンの ◁ ▷ を押して「解除する」を選択し、OKボタンを押します。

- 解除をやめるときは、「解除しない」を選択してOKボタンを押します。
- 選択した画像のみの予約の解除は、「解除しない」を選択しOKボタンを押して、次の1コマプリント予約の中のプリント枚数の設定を0に設定してください。

注意

・「解除する」を選択すると、カード内のすべての画像のプリント予約が、解除されます。

CAMEDIA

Chapter

モード設定

8

- *各モード設定はメニューの中で行います。静止画撮影メニュー、動画撮影メニュー、再生メニューでは設定できる項目が異なります。*

機能設定でカメラを使いやすくする〜モード設定

カメラをうまく使いこなせるように、いろいろな機能をお好みに設定できます。設定できる機能は、たとえばモニタの明るさを調整する、画面に表示される長さの単位を選ぶ、カメラの動作音の設定などがあります。

1 **(メニューボタン)を押します。**

● メニュー画面が表示されます。

2 **十字ボタンの △ ▽ を押して「モード設定」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。**

3 **OKボタンを押します。**

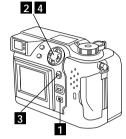
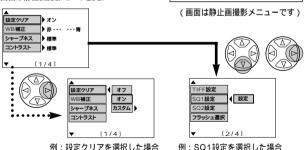
● モード設定画面が表示されます。

4 **△ ▽ を押して設定したい項目を選択し、▷ を押します。**

● 選択する内容が表示されるときや「設定」と表示されるときがありますので、各設定項目の手順にしたがって操作してください。

● モード設定画面の状態では撮影をすることはできません。

(画面は静止画撮影メニューです)

画面は静止画撮影モード設定メニュー

例：設定クリアを選択した場合　　例：SQ1設定を選択した場合

注意

・ **モード設定画面からメニュー画面に戻るには、必ずOKボタンを押して戻ってください。 (メニューボタン)で戻ると設定が保存されないで戻ります。**

モード設定メニュー一覧

表示されるモード*			表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
P	🎥	▶				
○	○	○	**設定クリア**	電源を入れたときに設定されるカメラの状態を決めます。	オン	P. 165
○	○		**WB補正**	ホワイトバランスを微調整します。	赤…♦…青	P. 100
○	○		**シャープネス**	画像の鮮鋭度を設定します。	標準	P. 169
○	○		**コントラスト**	画像の明暗の差を設定します。	標準	P. 170
○			**TIFF設定**	画質モードTIFFの記録サイズを設定します。	2048×1536	P. 171
○			**SQ1設定**	画質モードSQ1の記録サイズと画質を設定します。	1280×960 標準	P. 172
○			**SQ2設定**	画質モードSQ2の記録サイズと画質を設定します。	640×480 標準	P. 172
○			**フラッシュ選択**	外部フラッシュを取り付けたときの発光のしかたを設定します。	内部+外部	P. 125
○	○	○	**ビープ音**	カメラを操作したときに鳴る音の大きさを設定します。	小	P. 174
○			**AF方式**	オートフォーカスでピントを合わせるときの方式を設定します。	iESP	P. 73
○			**フルタイムAF**	シャッターボタンを半押ししなくてもカメラが常にピント合わせの動作を繰り返すように設定できます。	オフ	P. 71

* P（A/S/Mも含む）は「静止画撮影モード」、🎥 は「動画撮影モード」、▶は「静止画再生モード」および「動画再生モード」です。○の付いたモードのとき、項目が表示されます。

表示されるモード*			表示項目	機　能	初期設定	参照ページ
P	🎥	▶				
○	○		**レックビュー**	撮影後に記録画像を表示するかしないか、保存･消去を選択するかどうかを設定します。	オン	P. 175
○	○		**ファイル名メモリ**	カードに記録するファイル名の記憶方式を設定します。	リセット	P. 181
○	○	○	**モニタ調整**	液晶モニタの明るさを設定します。	−……♦……＋	P. 183
○	○	○	**日時設定**	日時を設定します。	−	P. 34
○	○		**m/ft設定**	フォーカスを設定するとき（P. 74参照）の長さの単位を設定します。	m	P. 184
		○	**インデックス表示**	インデックス再生時の画面の分割数を設定します。	9	P. 131

* P（A/S/Mも含む）は「静止画撮影モード」、🎥は「動画撮影モード」、▶は「静止画再生モード」および「動画再生モード」です。○の付いたモードのとき、項目が表示されます。

カメラの電源を切ったときに設定を元に戻す（設定クリア）

次回、カメラの電源を入れたときにどのような設定にするかを選択することができます。「オン」にすると、P. 166の項目がすべて初期状態に戻ります。「オフ」にすると、電源を切る直前の設定が保存されます。また、「カスタム」にすると、任意の設定にすることができます。（P. 167参照）

P　A/S/M

1 モード設定画面を表示させます。

● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「設定クリア」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「オフ」か「オン」を選択し、OKボタンを押します。

●「オン」を選択すると、電源を切ったときに設定が解除されて初期設定に戻ります。

●「オフ」を選択すると、電源を切っても、設定は解除されません。

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

（画面は静止画撮影メニューです）

「オン」を選択すると電源を切ったとき、初期設定に戻る項目とその値

設定項目	初期設定	参照ページ
フラッシュモード	オート	P. 116
スポット測光モード／マクロモード	オフ	P. 76 P. 87
ズーム位置	35mm	P. 64
絞り値	F1.8	P. 81
シャッター速度	1/800	P. 82
露出補正	±0	P. 84
AF/MF	AF	P. 74
プログラムモード撮影時の液晶モニタ	オフ	P. 55
連写／セルフタイマー／リモコン／オートブラケット撮影の設定	単写	P. 85 P. 104 P. 106
ホワイトバランス	オート	P. 97
ISO感度	オート	P. 95
フラッシュ補正	±0	P. 119
スローシンクロ	オフ	P. 121
デジタルズーム	オフ	P. 77
ファンクション撮影	オフ	P. 109
静止画撮影時の録音	オフ	P. 112
静止画撮影時の画質モード	HQ	P. 102
A/S/Mの機能	A	P. 80
AEロック設定	オフ	P. 90
動画撮影時の録音	オン	P. 114
動画撮影時の画質モード	HQ	P. 102
画像情報表示	オフ	P. 137

注意

- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

カメラの電源を入れたときの設定を決める（カスタム設定）

電源を切ったときにお好みの設定に戻すことができます。撮影中に設定を変更しても、電源を入れなおしたときにここで設定した状態に戻すことができます。

P　A/S/M

1 モード設定画面を表示させます。

- モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「設定クリア」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「カスタム」を選択し、▷ を押します。

- カスタム設定の画面が表示されます。

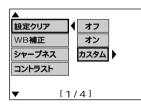
4 △ ▽ を押して設定したいモードを選択し、▷ を押します。

- 設定を選べるモードは次ページの表のとおりです。

（画面は静止画撮影メニューです）

8

モード設定

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

5 △ ▽ を押して設定したい値またはモードを選択し、OKボタンを押します。

● 他にも変更したいモードがあれば、4、5を繰り返して設定します。

6 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

●「設定クリア」を「カスタム」以外の選択にしても、「カスタム」の中で設定した内容は、保存されています。

「カスタム」で好みの状態を設定できる項目

フラッシュ	「オート」「赤目軽減」「強制発光」「オフ」
スポット/マクロ	「オフ」「スポット」「マクロ」「スポット＋マクロ」
ズーム位置	「35mm」「55mm」「80mm」「105mm」
絞り値	「F1.8」～「F10」
シャッタ速度	「1/800」～「16」
露出補正	1/3EV刻みで±2EVまで
AF/MF	「AF」「MF」
モニタ（P）	「オフ」「オン」
ドライブ	「単写」「連写」「AF連写」「セルフタイマー/リモコン」「オートブラケット」
ホワイトバランス	「オート」「晴天」「曇天」「電球」「蛍光灯」「ワンタッチ」
ISO感度	「オート」「100」「200」「400」
フラッシュ露出補正	1/3EV刻みで±2EVまで
スローシンクロ	「オフ」「先幕効果」「後幕効果」
デジタルズーム	「オフ」「オン」
ファンクション撮影	「オフ」「モノクロ」「セピア」「白板」「黒板」
スチル録音	「オフ」「オン」
スチル画質	「TIFF」「SHQ」「HQ」「SQ1」「SQ2」
A/S/M	「A」「S」「M」
AEロック	「オフ」「シングル」「マルチ」
ムービー録音	「オフ」「オン」
ムービー画質	「HQ」「SQ」
画面情報表示	「オフ」「オン」

画像の鮮鋭度を設定する（シャープネス）

シャープネス（鮮鋭度）を設定します。「標準」は画像の輪郭がシャープです。プリントなどの鑑賞用に適しています。「ソフト」は画像の輪郭がソフトです。加工するときなどに適しています。「ハード」は輪郭がより強調され、画像が鮮やかに見えます。状況に応じて使い分けてください。

P　A/S/M　🎥

1 モード設定画面を表示させます。

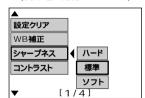
● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「シャープネス」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「標準」か「ソフト」か「ハード」を選択し、OKボタンを押します。

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

（画面は静止画撮影メニューです）

注意

・ **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

画像の明暗の差を設定する（コントラスト）

コントラスト（明暗の差）を設定します。「ハイ」は画像の明暗の差が大きくなります。「ロー」は画像の明暗の差が少なくなります。

P　A/S/M　🎥

1 モード設定画面を表示させます。

● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「コントラスト」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「標準」か「ハイ」か「ロー」を選択し、OKボタンを押します。

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

（画面は静止画撮影メニューです）

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

画質モードTIFFの記録サイズを設定する（TIFF設定）

画質モードTIFFの記録サイズを設定します。画像を拡大して再生・プリントする場合は、記録サイズを大きくしたほうが、きれいに見えます。ここで設定された内容は、TIFFで撮影するときに適用されます。

P　A/S/M

1 モード設定画面を表示させます。

● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「TIFF設定」を選択し、▷ を押します。

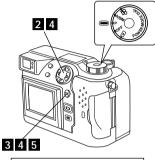
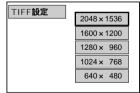
3 OKボタンを押します。

● 記録サイズ設定画面が表示されます。

4 △ ▽ を押して記録サイズを選択し、OKボタンを押します。

● 記録サイズは､「2048×1536」「1600×1200」「1280×960」「1024×768」「640×480」の中から選びます。

5 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**
- **画素数が大きくなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。（P. 49参照）**

画質モードSQの記録サイズと画質を設定する（SQ1/SQ2設定）

画質でSQ1またはSQ2を選択した場合の記録サイズと画像の画質を設定します。「標準」を選択すると、カードにより多くの写真を保存できます。「高画質」を選択すると、JPEG圧縮特有のノイズを抑えることができます。

P　A/S/M

1 モード設定画面を表示させます。

- モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「SQ1設定」または「SQ2設定」を選択し、▷ を押します。

3 OKボタンを押します。

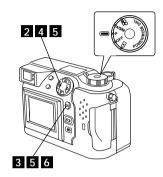
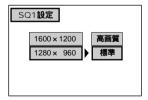
- 記録サイズ設定画面が表示されます。

4 △ ▽を押して記録サイズを選択します。

- 選べる記録サイズは次の表のとおりです。

5 ▷ を押してから △ ▽を押して「高画質」か「標準」を選択し、OKボタンを押します。

6 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

8 モード設定

画質モード（選択できる内容）

<table>
<tr><th colspan="2">画　質</th><th>記録サイズ</th><th>ファイル形式</th></tr>
<tr><td rowspan="4">SQ 1</td><td>高画質</td><td rowspan="2">1600×1200</td><td rowspan="8">JPEG</td></tr>
<tr><td>標　準</td></tr>
<tr><td>高画質</td><td rowspan="2">1280×960</td></tr>
<tr><td>標　準</td></tr>
<tr><td rowspan="4">SQ 2</td><td>高画質</td><td rowspan="2">1024×768</td></tr>
<tr><td>標　準</td></tr>
<tr><td>高画質</td><td rowspan="2">640×480</td></tr>
<tr><td>標　準</td></tr>
</table>

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**
- **画質が良くなるほど記録、再生時間が長くなり、撮影可能枚数が少なくなりますのでご注意ください。（P. 49参照）**

カメラの警告音量を変える（ビープ音）

警告音などのビープ音の大きさと、それを鳴らすか鳴らさないかを設定します。

P　A/S/M　🎥　▶

1 モード設定画面を表示させます。

● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1〜3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ビープ音」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「オフ」、「小」、「大」の中から選択し、OKボタンを押します。

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

（画面は静止画撮影メニューです）

注意

・ **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

画像記録中の画面を表示する（レックビュー）

撮影した画像をカードに記録しているあいだ、表示するかしないかの設定をします。

P　A/S/M　🎥

1 モード設定画面を表示させます。

- モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「レックビュー」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽ を押して「オン」「オフ」「レックチェック」を選択し、OKボタンを押します。

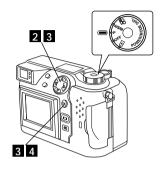
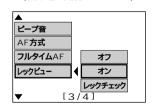
- 「オフ」にすると記録中モニタ表示が出ません。
- 「オン」にすると記録中モニタ表示が出ます。
- 「レックチェック」にすると撮影後すぐに撮影画像が表示され、カード記録するか消去するかの選択確認画面が表示されます。（P. 176参照）

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

（画面は静止画撮影メニューです）

注意

- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

8 モード設定

撮影直後に画像の保存／消去を選択する（レックチェック）

撮影後、カードに記録する前に撮影画像を記録するか消去するかを選択することができます。この設定にするには、レックビュー（P. 175参照）の設定で「レックチェック」を選択してください。

レックチェックを選択していると

撮影後、次のような操作を行って、保存か消去かを選択します。

P　A/S/M　🎥

1 レックチェックを選択した場合、撮影終了後に撮影画像を保存するか消去するかの確認画面が表示されます。

- 「🎥」モードのときは、☰（メニューボタン）を押すと動画再生して確認ができます。
- バッファメモリに複数枚の画像がある場合は、十字ボタンでの画像の選択やズームレバーでの拡大表示、インデックス表示を行って画像の選択ができます。

◁：1コマ前の画像を表示します。
▷：次の画像を表示します。
△：先頭コマを表示します。
▽：最終コマを表示します。

- レックチェックは、TIFFモードではできません。
- オートブラケット撮影された画像がバッファ内にあるとき、もっとも暗い画像がまず最初に再生されます。◁ボタンを押すとその次に暗い画像が再生されます。

静止画撮影モードのレックチェック確認画面

動画撮影モードのレックチェック確認画面

2 ズームレバーをT側にまわすと拡大表示、W側にまわすとインデックス表示をします。

● 複数の画像を表示させて選択することができます。
● オートブラケット撮影時のレックチェックでは、インデックス表示のしかたが通常撮影時とは異なります。（P. 179参照）

3 十字ボタンで画像を選択します。

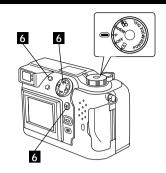
4 保存するときは、OKボタンを押します。画面に表示されている画像が、カードに記録されます。バッファに画像がある場合は、次の画像が表示されます。

● 静止画撮影モードで録音モードをオンにしているときは、保存を選択してOKボタンを押した後に、録音が始まります。録音完了後にカード記録が始まります。

5 記録しないときは、🗑（消去ボタン）を押します。1コマ消去と同じ画面が表示されます。

8
モード設定

6 △▽を押して「実行」を選択し、OKボタンを押すと表示中の画像が消去され、次の画像が表示されます。中止するときは、🗑（消去ボタン）を押すか、「中止」を選択してOKボタンを押すと、レックチェック確認画面に戻ります。

● レックチェックの画像を残したままカメラの電源をOFFにすると、残りの画像は自動的に保存されます。

注意

- 動画撮影モードおよびオートブラケット撮影では、保存か消去かを決定するまで次の撮影はできません。
- TIFFモード設定中にレックチェックを設定すると、画質モードが変わります。TIFFモードではレックチェックを設定しないでください。（同じ記録サイズの高画質のモードに切り換わります。）
- レックチェック確認中でも撮影はできます。シャッターボタンを半押しにすると、液晶モニタの表示が切り換わり、フォーカスロックした画像が表示されます。一度撮影画面に切り換わった後、約5秒でレックチェックの画面に戻ります。
- レックチェック確認中は、「P」と「A/S/M」モードの間ではモード切り換えができます。🎥との間で切り換えを行うと、バッファ内の全画像は自動的に保存されます。
- レックチェック確認中の静止画撮影では、撮影メニューの以下の項目の選択や変更はできません。「ドライブ」、「録音モード」、「機能カード」、「カードセットアップ」、「モード設定」
- レックチェック中は絶対にカードを抜いたり、電池を交換したりしないでください。バッファ内のデータが全て失われてしまいます。
- レックチェック確認中は、メニュー画面を表示させることはできません。チェックを終了してから操作してください。
- 電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。

オートブラケット撮影のときは

撮影した画像がオートブラケット撮影によるときは、バッファ内に通常撮影の画像があるかどうかで、インデックス表示のしかたが変わります。

● オートブラケット撮影の場合は、インデックス表示するとすべての画像が表示されます。

インデックス表示（オートブラケットの場合）

● 十字ボタンで画像を選択して保存するときは、OKボタンを押します。消去するときは、（消去ボタン）を押して、前ページ **6** の操作をしてください。消去した画像が画面から消えます。

● すべての画像で保存か消去かを選択してください。

インデックス表示（通常撮影時）

オートブラケット画像のひとつを消去した場合

8 モード設定

オートブラケット撮影設定が5枚の時

● オートブラケットで撮影した画像は、右の図のような順序で表示されます。

注意

- **オートブラケット撮影が設定されているときは、レックチェック時に全ての画像を保存するか、消去するかの選択を終了しなければ、次の撮影に進むことはできません。**
- **レックチェック（P. 176参照）の注意をよくお読みください。**

撮影画像のファイル名の付け方を変更する（ファイル名設定）

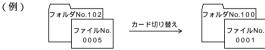
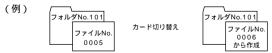
画像ファイル名の記憶方法を選択できます。「オート」にするとパソコンに画像を取り込んだときにファイル名が重複せず、ファイル管理できます。
記録される画像のファイル名・フォルダ名は、それぞれファイルNo.:0001～9999、フォルダNo.:100～999の間で、カメラ内部で自動的に生成されます。それぞれの設定を「リセット」と「オート」から選択できます。

フォルダ名、ファイル名について

記録される画像にはフォルダ名、ファイル名が次のように付けられます。

※ ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

各モードでのフォルダ名、ファイル名の付け方

● リセット
カードを入れ替えたときに、フォルダNo.、ファイルNo.共にリセットされます。
（例）

● オート
カードを入れ替えたときに、フォルダNo.はそのままで、ファイルNo.が前に使っていたカードに記録されていたNo.の続きの番号になります。
（例）

パソコンに画像単位でコピーするときに複数のカードにまたがって大量に撮影をしても、ファイルNo.が重複しません。ただし9999枚以上撮影すると、0001に戻ります。

P A/S/M 🎥

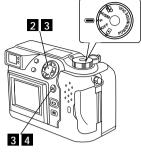
1 モード設定画面を表示させます。

- モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 十字ボタンの △ ▽ を押して「ファイル名メモリー」を選択し、▷ を押します。

3 △ ▽を押して、「リセット」か「オート」を選択し、OKボタンを押します。

- 「リセット」を選択すると、カードを入れるたびにフォルダ名とファイル名がリセットされます。
- 「オート」を選択すると、カードを入れたとき、フォルダ名は最後に使用したカードと同じものが、ファイル名は最後に使用したカードの末尾から続けて加算されるので、1度に撮影した数枚のカードのファイル名が重複しません。

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

注意

- **最終ファイル名よりも大きいファイル名を持つカードを入れた場合は、そのファイル名から続けて加算されます。**
- **最大フォルダ名（999）の最大ファイル名（9999）に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影はできません。**
- **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

液晶モニタの明るさを調整する（モニタ調整）

液晶モニタの明るさを調節できます。

P　A/S/M

1 モード設定画面を表示させます。

● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 △ ▽ を押して「モニタ調整」を選択し、▷ を押して「設定」を選択します。

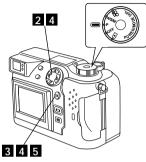
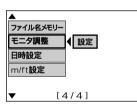
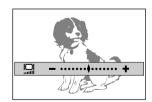
3 OKボタンを押すと、明るさ設定画面が表示されます。

4 ◁ ▷ を押して明るさを設定し、OKボタンを押します。

5 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

注意

・ **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

8

モード設定

長さ表示の単位を変更する（m/ft設定）

マニュアルフォーカスモードで、液晶モニタに表示される長さの単位をメートル単位とフィート単位から選べます。（マクロモードではセンチ単位とインチ単位で切り替わります）

P　A/S/M　🎥

1 モード設定画面を表示させます。

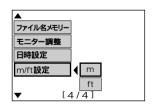
● モード設定メニュー画面の操作方法の手順1～3を行います。（P. 162参照）

2 △▽を押して「m/ft設定」を選択し、▷を押します。

3 △▽を押して「m（メートル単位）」か「ft（フィート単位）」を選択し、OKボタンを押します。

4 メニューが消えるまで、繰り返しOKボタンを押します。

（画面は静止画撮影メニューです）

注意

・ **電源を切っても、設定は変更を加えるまで保存されます。**

CAMEDIA

Chapter

9

パソコンへの読み込み

・*この章では、撮影した画像をパソコンに読み込む方法について説明しています。また、CAMEDIA Masterを使って読み込む方法や加工する方法についても紹介しています。*

OLYMPUS DIGITAL CAMERA

画像をパソコンへ読み込む方法

撮影してカードに保存した画像は、パソコンなどに読み込んで、楽しむことができます。
このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をパソコンに読み込むには、次の方法があります。

カメラをパソコンに接続して読み込む（P．188参照）

カメラのＵＳＢ端子やデータ入出力端子による通信機能を使い、パソコンと接続しカメラに入っているカードから直接、画像データを読み込みます。この方法で読み込みを行うには以下の準備が必要です。ご使用のパソコンの環境によって使用できる方法が異なりますのでご注意ください。

パソコンの環境	接続する端子	接続に必要なもの	
		接続ケーブル	通信用ソフトウェア
Windows 2000 professional/Me Mac OS 9以上＊1	USB端子	専用USBケーブル（CB-USB1）	特に必要ありません。
	シリアル（RS-232C）端子	専用シリアルケーブル（CB-82）＊2	CAMEDIA Master
Windows 98/98 Second Edition	USB端子	専用USBケーブル（CB-USB1）	USBドライバ＊1
	シリアル（RS-232C）端子	専用シリアルケーブル（CB-82）	CAMEDIA Master
Windows 95/NT 4.0 SP3以上 Mac OS 7.6.1以上	シリアル（RS-232C）端子	専用シリアルケーブル（CB-82）＊2	CAMEDIA Master

＊1：・ USBドライバはCAMEDIA Master 2.5のCD-ROMに含まれています。また、オリンパスのホームページから最新版をダウンロードできます。
・ Mac OS 8.6の場合は、USBを標準装備してUSB MASS Storage Support 1.3.5により動作しているMacintoshパソコンでのみ動作確認されています。USBのサポートについては、アップルコンピュータ社へお問い合わせください。
・ USBによる接続の場合は、Windowsのエクスプローラなどのファイル管理ソフトで画像データを読み込んだり消去することができます。
・ CAMEDIA MasterはUSB接続による通信でも使用でき、簡単な画像の処理などの機能も使うことができます。
・ 専用ケーブルとCAMEDIA Masterを同梱した便利な接続キットをご用意しています。

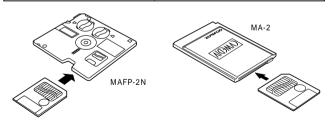
＊2：・ Macintoshの場合は専用変換ケーブルが別途必要です。

注意

- **CAMEDIA Masterをお使いの場合は、CAMEDIA Master 2.5が必要です。それ以下のバージョンでは動画や音声の再生、通信用ドライバがこのカメラに対応していない場合があります。**
- **パソコンがUSB端子を装備していても、次の環境での動作保証はできませんのでご注意ください。**
  Windows 95からWindows 98へアップグレードしたパソコン。
  Windows 95、Windows NT 4.0。
- **Mac OSならびに USB MASS Storage Supportのアップグレードバージョンについての動作保証はできませんのでご注意ください。**

カードから直接読み込む

カード用のアダプタを使うと、カメラをパソコンと接続しなくても画像をパソコンに読み込むことができます。それぞれの機器の最新情報については、当社カスタマサポートセンターにお問い合わせください。

パソコンの種類	必要なカードアダプタ
3.5 型（インチ）フロッピディスクドライブを装備するパソコン	フロッピディスクアダプタ FlashPath MAFP-2N
PCカードスロットを装備するパソコン	PC カードアダプタ MA-2
USB端子を装備するパソコン	スマートメディア・リーダ・ライタ MAUSB-2

注意

- **パソコンの動作環境やカードの記憶容量等により、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。**
- **お取り扱いについては、各機器の取扱説明書をお読みください。**

通信ケーブルを使いパソコンと接続する

ここでは、カメラとパソコンを通信ケーブルを使って接続して画像を読み込む方法について説明します。お使いのパソコンの環境によって使用できる方法が異なりますのでご注意ください。(P. 186参照)

USBケーブルによる接続

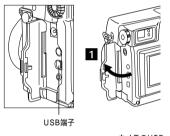
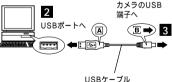
- Windows 98、98 Second EditionがインストールされているDOS/V(PC/AT互換)機の場合は、USBドライバをあらかじめパソコンにインストールされている必要があります。インストール方法については、USBドライバのインストールガイド(CAMEDIA Masterをお使いの場合は、CAMEDIA Masterのインストールガイド)をお読みください。
- Mac OS 8.6 がインストールされているApple Macintoshの場合は、USBのサポートのバージョンがUSB MASS Storage Support 1.3.5 であることをお確かめください。

1 カメラのコネクタカバーを開けます。

2 USBケーブルのプラグ部に A と刻印されている側を、パソコンのUSB端子に差し込みます。

3 USBケーブルのプラグ部に B と刻印されている側を、カメラのUSB端子に差し込みます。

4 カメラのモードダイヤルを ▶ に合わせます。

- パソコンでは、カメラで選択されているカードをひとつのドライブ(通常はリムーバブルディスク)として認識します。Macintoshの場合は、デスクトップ上に新しいフォルダとして表示されます。
- カード内の画像は、Windowsのエクスプローラのようなファイル管理ソフトでフロッピディスクやMOでファイルを扱うように、ファイルとして扱うことができます。
- 以下のときには、パソコンとの接続を一度止める必要があります。(P. 190参照)
  - ・モードを切り替える。
  - ・カメラの電源を切る

カードの取り外しかた

パソコンが誤動作する場合がありますので、カードを取り出す際は必ず以下の手順で操作してください。（誤動作を起こした場合USBケーブルを接続しなおすかパソコンを再起動する必要があります。）

● Windowsの場合

1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**

2 **「マイコンピュータ」上から「ドライブアイコン（リムーバブルディスク）」を選択してマウスで右クリックをしてメニュを表示させせます。**

3 **メニューから「取り出し」を選択して左クリックします。**

4 **カメラのカードカバーを開けてカードを取り出します。（P. 33参照）**

● Macintosh の場合

1 **カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認します。**

2 **デスクトップ上の「ドライブアイコン」を選択して「ごみ箱」に捨てます。**

または、「特別」メニューから「取り出し」を選択します。

3 **カメラのカードカバーを開けてカードを取り出します。（P. 33参照）**

USBケーブルの取り外し手順

USBケーブルを取り外す場合は、以下の手順にしたがって行ってください。

● **Windows98/Me、MacOSの場合**

カメラのカードアクセスランプが消えていることを確認してから、USBケーブルを取り外してください。

● **Windows2000の場合**

次の（A）（B）どちらかの手順で取り外してください。

（A）タスクバーの をクリックする

① タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し（下図の円内の部分）のアイコンを左クリックします。
② ドライブを停止するメッセージが表示されたら、メッセージを左クリックします。
③ 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
④ USBケーブルを取り外します。

（B）タスクバーの をダブルクリックする

① タスクバー（パソコン画面右下）に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し（下図の円内の部分）のアイコンをダブルクリックします。
② ハードウェアの取り外し画面が表示されたら、ハードウェアデバイスの一覧からカメラを選択して「停止」ボタンをクリックします。
③ 安全に取り外しできることを伝える「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
④ USBケーブルを取り外します。

注意

- **誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切ったりモードを切り替えないでください。**
- **パソコンとの接続中（通信中）は、スリープ状態（電池節約状態）になったり自動的に電源が切れたりしません。長時間ご使用になるときは、ACアダプタをお使いください。**
- **パソコンに接続したときは、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。**
- **USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないで直接パソコンとカメラを接続してください。**

シリアルケーブルによる接続

このカメラで、シリアルケーブルによりカメラとパソコンを接続するためには、専用シリアルケーブル（別売）とCAMEDIA Master2.5が必要です。また、NECのPC-98シリーズをお使いの場合は、別売の変換ケーブルをご用意ください。

CAMEDIA Master の動作環境

● **Windows版（DOS/V（PC/AT互換機、NEC PC-9821および PC-98－NXシリーズ))**

CPU	：Pentium以上
OS	：Windows 95以上/NT 4.0 SP3以上
ハードディスクの空き容量	：40MB以上（標準インストール時）
メモリ	：32MB以上（推奨64MB以上）
コネクタ	：D-SUB 9ピンコネクタ（DOS/V機用） D-SUB 25ピンコネクタ(NEC PC98シリーズ用）
モニタ	：256色以上、800×600ドット以上 （推奨65536色以上）

● **Macintosh版**

CPU	：PowerPC以上
OS	：Mac OS 7.6.1～9.0.4
ハードディスクの空き容量	：40MB以上（標準インストール時）
メモリ	：アプリケーション割当20MB以上
モニタ	：256色以上、800×600ドット以上 （推奨32000色以上）

メモ

・音声の再生・録音にはサウンドカードおよびマイクが必要です。動画に対応するためにQuickTime 4.0のインストールが必要です。詳しくはCAMEDIA Masterのオンラインマニュアルを参照してください。
・シリアルケーブル、変換ケーブルとCAMEDIA Masterをセットにした接続キットもご用意しています。（P. 209参照）

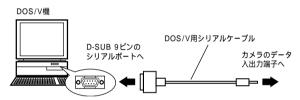
接続の手順

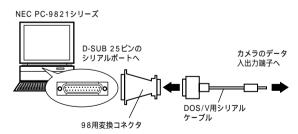
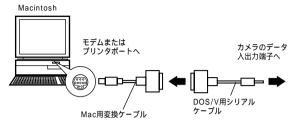
カメラとパソコンを接続する前に、あらかじめCAMEDIA Masterがパソコンにインストールされている必要があります。インストール方法については、CAMEDIA Masterのインストールマニュアルをお読みください。

1 パソコンとカメラの電源が切れていることを確認します。

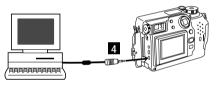
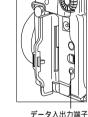
2 パソコン側の「COM1」「COM2」などと書かれているシリアルポートに、専用シリアルケーブルを差し込みます。

・DOS/V（PC/AT互換）機の場合は、D-Sub 9ピンのシリアルポートに接続します。

DOS/V機

・NEC PC-9821シリーズの場合は、R-232Cと書かれているポートに98変換ケーブルを接続してシリアルケーブルを接続します。

NEC PC-9821シリーズ

・ Macintoshの場合は、パソコン側のプリンタポートまたはモデムポートに、Macintosh用変換ケーブルを接続しシリアルケーブルを差し込みます。

3 カメラのレンズキャップを外します。

4 シリアルケーブルのプラグをカメラのデータ入出力端子に差し込みます。

データ入出力端子

5 パソコンの電源を入れます。

6 カメラのモードダイアルを ▶ にセットします。

7 CAMEDIA Masterを起動します。

注意

- **PC-98ノートパソコン（14ピンの場合）には、別売の変換コネクタ（NEC製PC-9821N-K04）が必要です。**
- **カメラの電源が入っている状態でパソコンと接続すると、カメラが正しく作動しない場合があります。パソコンと接続するときは、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。**
- **パソコンに接続したときは、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。**
- **テレビに接続している場合、通信はできません。**
- **電池の消耗を防ぐため、ACアダプタ（C-7AC（別売））の使用をおすすめします。**

CAMEDIA Masterで画像を読み込む

ここではCAMEDIA Masterを使って画像をパソコンに読み込む方法を説明します。
シリアルケーブルでパソコンと接続されている場合は、CAMEDIA Masterを使ってカメラの中の画像を簡単にパソコンに移動したりコピーします。
USBケーブルで接続されている場合でも使用できます。

1 **CAMEDIA Master を起動します。**

2 **<USBケーブルで接続の場合>**
リムーバブルディスクアイコンをクリックし、「DCIM」フォルダの中の「100OLYMP」フォルダをクリックします。
<シリアルケーブルで接続の場合>
「マイカメラ」のアイコンをクリックします。

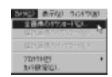
- カメラ以外の機器（カードアダプタやUSBカードリーダ・ライタなど）のカードに保存されている画像を見る場合は、リムーバブルディスクアイコンをクリックしてください。

（Fドライブに割り振られた場合）

3 保存されている画像が、一覧で表示されます。見たい画像にカーソルを合わせ、ダブルクリックすると、選択した画像が拡大して表示されます。

4 画像をパソコンに読み込みます。

- 画像のコピーや移動の操作方法はCAMEDIA Masterのオンラインマニュアルをお読みください。
- ［カメラ(C)］で操作できるのは、シリアルケーブルで接続されているカメラのみです。

メモ

- パソコンで読み込んだ画像は、CAMEDIA Master以外にもJPEGを扱えるグラフィックソフト（Paint Shop Pro／Photoshopなど）、インターネット閲覧ソフト（Netscape Communicator／Microsoft Internet Explorerなど）などのアプリケーションソフトウェアでも見ることができます。詳しくは対応ソフトのマニュアルを参照してください。
- CAMEDIA Masterの詳しい使い方については、CAMEDIA Masterのオンラインマニュアルをお読みください。

CAMEDIA Master機能紹介

別売のCAMEDIA Master では、カメラからの画像の読み込みの他にカメラの各種設定（プロテクト設定/解除・データ消去・日時の設定・その他の設定変更）もサポートしています。操作方法については、CAMEDIA Master のオンラインマニュアルを参照してください。

● カメラとの通信

シリアルの接続で、カメラの各種設定（プロテクト設定・解除、データ消去、日時の設定、その他設定変更等）をサポートしています。

● 画像ビューワー

カメラからダウンロードした画像、ディスク上の画像ファイルのインデックス表示、単画面表示を行います。また、エクスプローラ風のフォルダ階層表示とドラッグ&ドロップによる操作で、画像の管理が簡単に行えます。更に動画の再生や静止画および動画のスライドショー（自動再生）もできます。動画の任意のフレームからの切り出しもできます。

● 一括処理

インデックスウィンドウから画像の回転、フォーマット変換、リネーム等の一括処理が可能です。

● 加工

回転（右90 度、左90 度、180 度、任意角度)、色数変更、リサイズ、テキスト挿入、各種フィルター処理（明るさ、コントラスト、カラーバランス、シャープネス等）が可能です。

● カメラ連携機能

「パノラマ合成」　：標準カードのパノラマモードで撮影した画像を使用して、パノラマ合成画像が作成できます。

「テンプレート合成」：別売のテンプレートカードに、カメラで合成可能なオリジナルテンプレート画像をアップロードできます。

● 印刷

単画像印刷の他、単画像日付入り印刷、分割シール紙への印刷を行います。

CAMEDIA Master の詳しい使い方については、CAMEDIA Master のオンラインマニュアルをお読みください。

CAMEDIA

Chapter

10 その他

修理に出す前にお確かめください

操作上のトラブル

こんなときには		
カメラが動かない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①電源がOFFになっている。	❶モードダイヤルをOFF以外にして、電源をONにしてください。	P.46
②電池の向きが正しくない。	❷電池を正しく入れ直してください。	P.25
③電池がない。	❸新しい電池を入れてください。	P.25
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池をポケット等で温めてから使用してください。	P.13
⑤スリープ（待機）機構が働いた。	❺シャッターボタン、またはズームレバーを操作してください。	P.46
⑥パソコンに接続している。	❻パソコンに接続中は、カメラは動作しません。	P.188
⑦レンズキャップをしたまま電源をONにした。	❼レンズキャップをはずし、一度電源OFFにしてから電源をONにしてください。	P.34

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュの充電が完了していない。	❶一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.54 P.65
② 🎥（動画撮影モード）で撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❷撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから撮影してください。	P.58
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.206
④カードの容量がいっぱいになった。	❹カードの交換を行うか､不要なコマの消去を行うか､画像をパソコンなどに転送し､全コマ消去を行ってください。	P.31 P 63 P.147 P.186
⑤撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❺電池を新品と交換してください。	P.25

10

その他

こんなときには		
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
原因	こうしましょう	参照ページ
⑥液晶モニタの表示やコントロールパネルの表示が消えた。またはコントロールパネルで電池残量警告マークのみ点滅している。	❻電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.25 P.47
⑦メモリーゲージが全て点灯している。	❼メモリに空きができるまでお待ちください。	P.56 P.58
⑧カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❽新しいカードを入れてください。	P.31
⑨モードダイヤルが、「▶」にセットされている。	❾「P」、「A/S/M」、または「🎥」にしてください。	P.36

こんなときには		
フラッシュが発光しない。		
原因	こうしましょう	参照ページ
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶フラッシュモードを切り替えてください。（連写モードおよびパノラマモードでは、フラッシュはご使用になれません。）	P.116
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。	P.116 P.118
③ドライブモードが「連写・AF連写」「BKT」になっている。	❸1コマ撮影に切り替えてください。	P.85
④パノラマ撮影をしている。	❹パノラマ撮影をやめてください。	P.110
⑤ファンクション撮影で、白板／黒板が設定されている。	❺白板／黒板では、フラッシュは光りません。	P.109

こんなときには		
画像データに記録される日付が正しくない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。はじめて使うときは設定されていません。シリアル接続の場合、別売のCAMEDIA Masterを使い、パソコンからの設定もできます。	P.34
②日付の設定はしたがその後電池を抜いた。	❷再度日付設定してください。	P.34

こんなときには		
動画撮影時、音声が録音できない		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①ムービー録音の設定が「オフ」になっている。	❶ムービー録音の設定を「オン」にしてください。	P.114

こんなときには		
液晶モニタ上で再生ができない。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①撮影モードになっている。	❶モードダイアルを「▶」にしてください。	P.130
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.53
③カードに問題がある。	❸エラー表をご覧ください。	P.206
④テレビに接続している。	❹テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	P.135

こんなときには		
液晶モニタが見にくい。		
原因	こうしましょう	参照ページ
①液晶モニタの輝度の設定が適切でない。 ②太陽光の下である。	❶液晶モニタの輝度調節をしてください。 ❷太陽の光を手などでさえぎってください。	P.183

こんなときには		
画像のプロテクト、１コマ消去、全コマ消去、初期化ができない。		
原因	こうしましょう	参照ページ
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	P.31

こんなときには		
パソコンとつないだとき、データ転送中にエラーメッセージが出る。		
原因	こうしましょう	参照ページ
①ケーブルが正しく接続されていない。	❶正しく接続されていることを確認してください。	P.186
②カメラの電源がOFFになっている。	❷モードダイアルを「▶」にしてください。	P.188 P.192
③電池がない。	❸新しい電池を入れるか、ACアダプタ（別売）をお使いください。	P.25 P.29
④USBドライバが正しくインストールされていない。	❹USBドライバ（またはCAMEDIA Master）のインストールマニュアルにしたがって、カメラが正しく認識されているか、確認してください。	
⑤パソコンのシリアルポートが正しく設定されていない。	❺パソコンでシリアルポートが正しく設定されていることを、確認してください。	

10

その他

画像の出来が良くない場合

こんなときには		
ピントの合っていない写真ができた。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった。(カメラぶれ)	❶カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.51 P.52
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.53 P.70
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	
④被写体が近すぎた。	❹0.2～0.8m以内に被写体がある場合はマクロモードを使い、それ以上の場合は通常モードを使ってください。	P.76
⑤セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。	❺カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。またはリモコンをご使用ください。	P.53 P.106
⑥マニュアルフォーカスで被写体距離を確認せずに撮影してしまった。	❻マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P.74

こんなときには		
できあがった画像が明るすぎる。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.116
②高輝度の被写体に向かって撮影した。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.84 P.119
③マクロモードで被写体に近づいて撮影した。	❸フラッシュ可能範囲を確認して撮影してください。	P.76 P.116

こんなときには		
できあがった画像が暗い。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P.51
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。または外部フラッシュをご使用ください。	P.116 P.123
③フラッシュモードが発光禁止になっていた。	❸フラッシュのモードを確認してから撮影してください。	P.116
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュのモードを強制発光モードにセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P.87 P.118
⑤連写モードで撮影した。	❺シャッタースピードの最長秒時が短いので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	

こんなときには		
室内で写した写真の色がおかしい。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①照明の色が影響した。	❶フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。	P.118
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.97 P.98 P.100
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.97 P.98 P.100

こんなときには		
画像の一部が欠けてしまった。		
原因	**こうしましょう**	**参照ページ**
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P.51
②撮影距離が近かった。	❷液晶モニタを使ってください。	P.55 P.57

10

その他

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

使用後は、必ず電源を切って、レンズキャップを付けて保管してください。
保管の際は、防虫剤などを使わないでください。

カメラのお手入れ

1 モードダイヤルをOFF にします。

2 電池を取り出します。（P. 25参照）ACアダプタを使っている場合は、カメラから接続コードプラグを抜き、電源プラグを家庭用電源コンセントから抜きます。（P. 29参照）

3 カメラの外側... 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダー... 柔らかい布でやさしく拭きます。

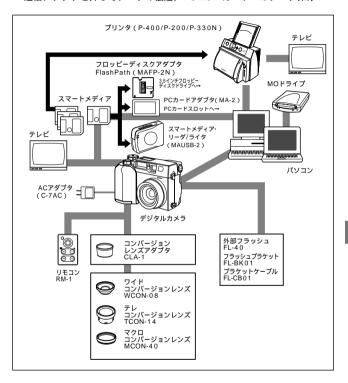
レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。保管の際は、レンズキャップを取り付けます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注意

- **絶対にベンジンやアルコールなどの強い洗剤を使わないでください。**
- **お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。**
- **レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。**
- **クリーナーや化学雑巾は使わないでください。**

このカメラに接続できる機器（システムチャート）

別売の機器とシステムを組むと、以下のことが可能です。
● 通信アダプタを介してデータの伝送、PCMCIAカードへのデータ保存

エラーコード表

このカメラでは各種の警告をエラーコードにて表示します。
(コントロールパネルの表示は点滅します。)

コントロールパネル	モニタ表示	エラー内容	対応
-0-	カードふたが開いています	カードふたが開いています。	カードを入れてカードふたを閉じてください。
---	カードを認識できません	カードが入ってません、または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを入れなおしてください。
0	撮影可能枚数が0です	0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
-P-	書込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影をする場合は、プロテクトシールをはがしてください。
-E-	このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合は、クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを差し込むか、カードをフォーマットしてください。それでも直らない場合は、このカードは使用できません。
(表示なし)	この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生してください。それもできない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

コントロールパネル	モニタ表示	エラー内容	対応
-F-	（フォーマット画面）	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
000	画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリントデータ、または音声を記録することができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。

アフターサービスについて

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。
● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、またはお近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。
● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
● 本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。
● 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。

別売品のご案内

- パソコン接続キット（C-9KU）
  - CAMEDIA Master 2.5（Macintosh、Windows 95/98/Me/2000/NT4.0用）
  - パソコン接続用USBケーブル（DOS/V、Macintosh、PC-98共用）
- パソコン接続キット（C-9KP）
  - CAMEDIA Master 2.5
  - DOS/V用シリアルケーブル
  - 98変換ケーブル
  - MAC変換ケーブル
- CAMEDIA Master 2.5（C90PJ2）
- スマートメディア（8MB/16MB/32MB/64MB）
- 機能付スマートメディア
  - テンプレートカード（4MB/M-4T）
  - カレンダーカード（4MB/M-4C）
  - 手書きタイトルカード（4MB/M-4N）
- 専用外部フラッシュ（FL-40）
- 専用フラッシュブラケット（FL-BK01）
- 専用ブラケットケーブル（FL-CB01）
- 専用プリンタ（P-400/P-200/P-330N）
- ACアダプタ（C-7AC）
- ニッケル水素電池（B-03NH16）
- ニッケル水素電池専用充電器（BU-40SNH）
- PCカードアダプタ（MA-2）
  - 64MBスマートメディアまで対応
- フロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2N）
  - 64MBスマートメディアまで対応
  - DOS/V: Windows 95/98/NT4.0/2000 professional
  - PC-9821: Windows 95（OSR2以降）/98
  - Power Macintosh: Mac OS 7.5.1～9.0.4（Read only）
- スマートメディア・リーダ／ライタ（MAUSB-2）
  - 64MBスマートメディアまで対応
  - Windows 98/2000 professional、Mac OS 8.6～9.0.4

別売品の最新情報については、オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp）をご覧ください。

2000年9月現在

画像ファイルの互換性について

画像ファイルの互換性について
このカメラで撮影した画像を、他のオリンパスデジタルカメラで再生・印刷する場合、および他のオリンパスデジタルカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合は、以下のような制限がありますのでご注意ください。

このカメラで撮影
他のカメラで再生・印刷

他のカメラ	液晶モニタ再生	ダイレクトプリント（P-300/P-150接続時）
C-2100UltraZoom	○	×
C-990ZOOM	○ 注1	×
C-3000ZOOM	○	×
C-3030ZOOM	○	×
C-960ZOOM	○ 注1	×
C-860L	○ 注1、2	×
C-21T.commu	○ 注1	×
C-2020ZOOM	○ 注1	○
C-2500L	○ 注1	×
C-21	○ 注1	○
C-920ZOOM	○ 注1	○
C-2000ZOOM	○ 注1、2	○
C-900ZOOM（D-400ZOOM）	×	×
C-830L	×	×
C-840L（D-340L）	×	×
C-820L（D-320L）	×	×
C-420L	×	×
C-1400XL	×	×
C-1400L	×	×
C-1000L	×	×

注1 ： 画像サイズによっては、サムネイル再生のみになります。
注2 ： TI FFは再生できません。

動画再生機能の無いカメラでは動画再生はできません。

他のカメラで撮影
このカメラで再生

他のカメラ	液晶モニタ再生
C-2100UltraZoom	○
C-990ZOOM	○
C-3000ZOOM	○
C-3030ZOOM	○
C-960ZOOM	○
C-860L	○
C-21T.commu	○
C-2020ZOOM	○
C-2500L	○ 注3
C-21	○
C-920ZOOM	○
C-2000ZOOM	○
C-900ZOOM（D-400ZOOM）	○
C-830L	○
C-840L（D-340L）	○
C-820L（D-320L）	○
C-420L	○
C-1400XL	○
C-1400L	○
C-1000L	○

注3 ： SQモードで撮影した画像のみ再生できます。
また、クローズアップ再生はできません。

仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮/DPOF対応
静止画音声	：Waveフォーマット準拠
動画	：QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	：3V（3.3V）スマートメディア4MB、8MB、16MB、32MB、64MB
記録コマ数	：約 1枚（TIFF: 2048X1536）
（16MBカード使用時、	：約 6枚（SHQ）
音声記録なし）	：約 20枚（HQ）
	：約 49枚（SQ1:1280X960標準）
	：約 165枚（SQ2:640X480標準）
消去	：1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	：1/1.8型（インチ）CCD固体撮像素子
	：334万画素（総画素数）
記録画素数	：2048×1536ピクセル（TIFF/SHQ/HQ）
	：1600×1200ピクセル（TIFF/SQ1）
	：1280×960ピクセル（TIFF/SQ1）
	：1024×768ピクセル（TIFF/SQ2）
	：640×480ピクセル（TIFF/SQ2）
ホワイトバランス	：フルオートTTL（iESPオート)、ワンタッチ、プリセット（晴天、曇天、電球、蛍光灯）
レンズ	：オリンパスレンズ 7.1〜21.3mm、F1.8-2,6、7群10枚（35mmフィルム換算35〜105mm相当）
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
露出制御方式（撮影モード）	
	：プログラム自動露出、絞り優先自動露出、シャッター優先自動露出、マニュアル露出
絞り	：W　：F1.8〜F10.0
	T　：F2.6〜F10.0
シャッター	:メカニカルシャッター併用
静止画	：プログラム　：1 〜 1/800秒
	シャッター優先、絞り優先：4 〜 1/800秒
	マニュアル　：16 〜 1/800秒
動画	：1/30 〜 1/10000秒

撮影範囲　　　　：0.8m ～ ∞（通常モード）
0.2m ～ 0.8m（マクロモード）
ファインダー　　：光学実像式ファインダー（AFターゲットマーク／逆光自動補正マーク）、液晶モニタ
液晶モニタ　　　：1.8型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン）
モニタ画素数　　：約114,000画素
オンスクリーン表示：日付時刻、コマ番号、プロテクト、画質モード、電池残量、画像情報、プリント予約、メニュー設定、他
フラッシュ充電時間：約6秒（常温時、CR-V3新品電池使用）
フラッシュ撮影範囲：W：約0.8m～5.6m
T：約0.2m～3.8m
フラッシュモード：オート発光（低輝度時自動発光、逆光時自動発光）、赤目軽減発光、強制発光、発光禁止
コントロールパネル表示
：画質モード、撮影可能枚数、カード警告、フラッシュモード、フラッシュ露出補正、電池残量、連写、露出補正、スポット測光モード、ホワイトバランス、ISO感度、セルフタイマー／リモコン、マクロモード、スローシンクロ、オートブラケット、カード書き込み、マニュアルフォーカス、録音
オートフォーカス：TTL方式iESP AF、スポットAF
コントラスト検出方式／
焦点調節範囲：0.2m～∞
セルフタイマー　：作動時間約12秒
外部コネクタ　　：DC入力端子、データ入出力端子（RS-232C）、A/V出力端子（NTSC方式）、
USB端子（USB1.0準拠）
外部フラッシュ端子
日付・時刻　　　：画像データに同時記録
自動カレンダー機能：2030年まで自動修正
カレンダー用電源：本体電源と共用
（内蔵キャパシタによるバックアップ付）

カード機能（パノラマ以外は機能付スマートメディア使用）
：パノラマ合成、テンプレート合成、カレンダー合成、手書きタイトル合成

使用環境
温度　：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度　：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）

電源　：電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用。
マンガン電池は使用できません。
AC アダプタ（別売）

大きさ　：幅109.5mm
高さ76.4mm
厚さ69.6mm（突起部含まず）

質量　：307g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数 ････････････････････
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

銀塩写真 ･･････････････････
ハロゲン化銀を使った映像記録のシステムをいいます。（従来からあるフィルムを使った写真は、この方式です。）スチルビデオやデジタル方式の写真に対して使われています。

けられ ････････････････････
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式 ･･･････
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り ･･････････････････････
レンズをとおして入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子 ･･･････････････
外部フラッシュにあるカメラとの接続のための端子。

バックライト ･･･････････････
液晶モニタが見えるように照らすための光源。

フラッシュブラケット ･･････
フラッシュとカメラを連結させる器具。

リングフラッシュ ･･････････
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。

露出 ･･････････････････････
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

**A モード ･･････････････････
(aperture priority mode)**
絞り優先AE モード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッタースピードを変化させ、適正な露出で撮影するモード。

**AE ･･････････････････････
(automatic exposure)**
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAE があります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

**CCD ････････････････････
(charge coupled device)**
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、334万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

DCF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(design rule for camera file system)
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(digital print order format)
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF 対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

デジタルESP 測光 ・・・・・・・・・・・
(electro selective pattern)
周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

EV ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(exposure value)
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(joint photographic experts group)
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ/HQ/SQに設定すると、JPEG 形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

Mモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(manual mode)
シャッタースピードと絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

Pモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(program mode)
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッタースピードを設定して撮影するモード。

Sモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(shutter speed priority mode)
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(tagged image file format)
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TFT（thin‐film technology）カラー液晶モニタ ・・・・・・・・・・・
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through the lens) 方式 ・・・・
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL‐AUTO ・・・・・・・・・・・・・・・
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

英数字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌……011-231-2338
仙　台……022-218-8437
新　潟……025-245-7343
松　本……0263-36-2413
東　京(八王子)……0426-42-7499
静　岡……054-253-2250
名古屋……052-201-9585
金　沢……076-262-8259
大　阪……06-6252-0506
高　松……087-834-6180
広　島……082-222-0808
福　岡……092-724-8215
鹿児島……099-222-5087
沖　縄……098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話をいただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。）なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30〜17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラ及び関連製品の情報の提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1丁目2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1丁目13-4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0961	金沢市香林坊1の2の24　千代田生命金沢ビル	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0001	福岡市中央区天神1の14の1　日本生命福岡ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

1AG6P1P0885--B　　**VT2207-03**